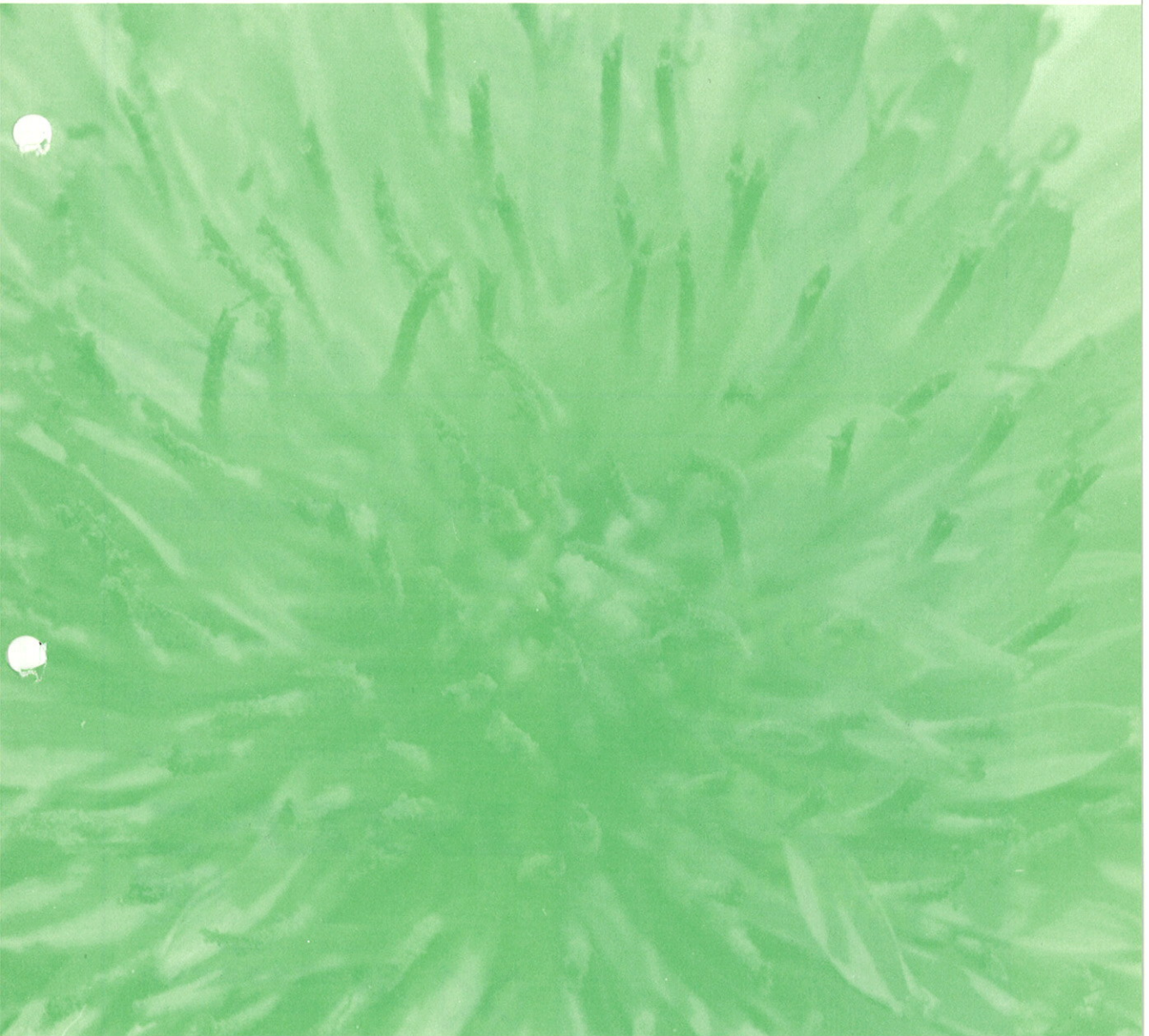


植調

第25卷第12号



財団法人 日本植物調節剤研究協会編



名指揮者

数多くの音楽を演出する指揮者。
激しく、または柔らかくタクトを振り、
それぞれの音楽を上手に創り上げます。
農作業場面も多種多彩。
それぞれの場面に応じられる指揮者が必要です。
三井東圧化学は、
農作業場面の指揮者として、
除草、殺虫、殺菌など、
それぞれの場面にあった農作業を
上手に演出します。

経済的な初期除草剤

MO粒剤-9

ホタルイ等に卓効を示す初期除草剤

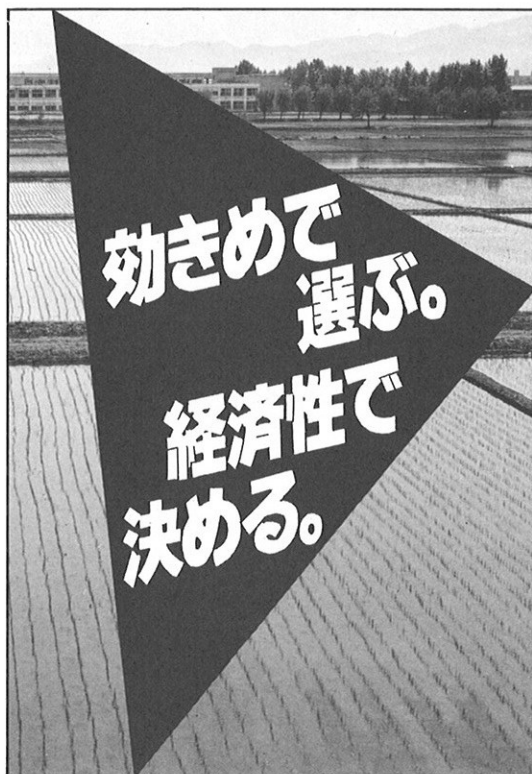
ショウロンM粒剤

水田初・中期一発処理剤

シンザン粒剤



三井東圧化学
東京・大阪・名古屋・福岡・札幌



苗にやさしく

雑草に強い水田初期除草剤

- 効めが長く、すばらしい殺草力を発揮。
- 低温でもイネに対して安全。
- 人畜毒性、魚毒性ともにきわめて低く、安心。
- 田植前に使用の場合は散布後3日以上の間隔をあけて田植する。
- 田植後に使用の場合は田植後8日(ノビエ1葉)までに散布する。
- 散布後3日間以上は止水にし、かけ流しはしない。

エックスゴーニ[®]粒剤

®は日本農薬と石原産業の共有登録商標

エックスゴーニ協議会



ISK

石原産業株式会社

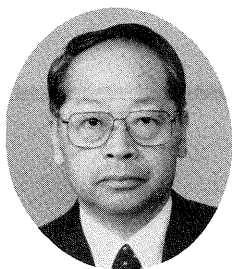
〒102 東京都千代田区富士見2-10-30



日本農薬株式会社

〒103 東京都中央区日本橋1-2-5

○本剤のシンボルマークです



巻頭言

ちょっとしたこと

(財)日本植物調節剤研究協会 常務理事 小澤 啓男

狭い日本では、農産物の生産現場である『たんぼ』や『はたけ』を見ようと思えば、誰でも容易に接し得る。特に、郊外に住んでいる人は犬の散歩の際でも、ジョギングしながらでもイネやムギ、野菜や果樹など農地の四季折々のさまを、ほんの目の当たりにすることができる。

その地域に住む人々にとってはこれが環境であり、自然そのもの、との感慨を深めているものと思う。このように身近に見る環境を、自分達のものとして理解し、護ってくれることは非常にありがたいことであり、自らも環境を構成する一要因であることを理解して、十分に心がけて欲しい。が、ちょっとしたお節介だけはやめて頂きたいものである。

人それぞれの生き方があり、生業があり思想もあって、それはそれで結構なことです。が、農家が農薬を利用することをもって、自然破壊、環境の敵のように決めつけるのは如何でありましょうか。

農作物の生産に携わらない人達にとっては、野菜の葉をもりもり食べる幼虫などは問題でなく、空中を華麗に舞う蝶が、畑や水田に発生する雑草には興味がなく、道野辺に咲く可憐な草花に興味を持つ。しかし、農家にとってはその幼虫が問題であり、作物の生育を脅かす雑草の発生が困るのです。手で殺したり、抜けば良いと言うかもしれませんが、その苦労を本当にご存知なんでしょうか。

話は変わりますが、NHKの山根さんの最近の著書『であいの旅』の中で、世田谷ケーブル溝火災をとりあげた一節で、普通出前を嫌がる

ソバ屋が『電話の出前注文がなく、もう死活問題です』と語っている下りがある。電話が不通でも大して困らない人が、たちまちに、なぜそんなに大げさに困るだろうか？ これは放送関係者の期待に応えて、ちょっとだけ事実を誇張してみたただけだろうと言う。しかし、取材する側も、される側も、このニュースを見聞きする人々も、『ほんのちょっとした誇張』に慣れ切ってしまったのではと、取材側に身を置く者として喉に小骨の刺さった気分であったと反省しておられる。

多くの消費者の農薬批判は、このちょっとした気分で、ほんの世間話程度かもしれないが、農家にとっては、ちょっとした不便ではすまされない。

農家は許可のない農薬を使うわけではない。登録されたものを使用基準通りに使っている。現状でも、問題ないものであるが、叡智を結集してより使い易い、確実な農薬開発に関係者一同努力しているから、今後は、更に低毒性で、対象の雑草、害虫、病菌など以外のものには影響しない優れた選択性のあるものによって変わる。これを受けて、使用する側も、無駄のない活用が図られる。

ほんのちょっとしたこともかもしれませんが、このちょっとしたこと、ほんのちょっとしたことも積み重ねられると、とてもその程度ではすまなくなり、大きく筋道からそれてしまう危険性があります。ちょっとしたお節介はもうやめませんか。俗に、言うではありませんか、『餅は餅屋に任せなさい』と。

目 次

(第 25 卷 第 12 号)

巻 頭 言

ちょっとしたこと…………… 1

<財)日本植物調節剤研究協会

常務理事 小澤啓男>

消費ニーズと作物育種…………… 3

<農林水産技術会議事務局

研究総務官 杉本忠利>

文 献 抄 録…………… 9

<財)日本植物調節剤研究協会

技術顧問 金澤 純>

平成 3 年度水稻作関係除草剤試験成績概要… 15

<財)日本植物調節剤研究協会 技術部>

表紙説明: 第25巻の表紙はセイヨウタンポポの花の拡大
です。

使って安心、三共の農薬。



●水田初期除草剤

サンバード[®]粒剤

●水田初期一発処理剤

クサカリン[®]粒剤25

●水田初期一発処理剤

クサホープ[®]D粒剤

●水田初期一発処理剤

ミスラッシャ[®]粒剤**三共株式会社**

消費ニーズと作物育種

農林水産技術会議事務局研究総務官 杉本忠利

はじめに

昨年11月、19号台風で受けた果樹被害についての対策会議が盛岡で開かれた折、果樹試盛岡支場にはど近い滝沢村の果樹農家を訪れる機会があった。経営規模4ha余のリンゴ専業農家であったが、台風によってジョナゴールドはほぼ全滅、王林は6割、ふじは4割が落下という大きな被害を受けていた。折損・倒木などは免れたのでよかった方だとの話があったが、同じ様な被害を受けた昭和34年の洞爺丸台風の際は落ちたリンゴも飛ぶように売れたのに、世の中は変わった。これからは一層消費者を意識しないと生き残れない。それにしても現在まで、リンゴ農家が曲りなりにもやってこれたのは「ふじ」のお陰で感謝している、といった話も聞いた。19号台風は、東北では青森県を中心に風速50mを超える強風が吹き荒れるという、まさに100年に一度といわれる規模のものである。リンゴ被害だけでも880億円に達している。

その日、ふじの原木を見る機会に恵まれた。交配後50年を経過した原木は、太い幹の上に枝を横に張りめぐらせ、古木ながら外に向って自信をほと走らせていた。ていねいな管理をすれば、若々しさを保つもので、研究者の誇りの様なものも感じられた。枝のつけ根には1円玉や5円玉が置かれており、聞けば原木を見に来た人があげていくという。リンゴ農家にとって救

世主であった証左であろう。

飽食といわれる時代にあって、消費ニーズに即した高品質農産物の生産に、今多くの人の目が注がれている。戦前に育成された品種が50年を経て全盛を誇っている。高糖度・多汁・芳香などいわゆる味の良さが人気の因であろう。ふじの育成に携わった研究者は、今日の状況を予測していたであろうか。偶々、時代の波にうまく乗ったのか。リンゴは、世界的にみても古い時代から品質主体に改良が加えられてきた作物である。消費ニーズとして高品質を目指したのはあたり前だったのか。

技術会議事務局では、今後の作物育種の方向付けについての検討作業に着手している。これに関係する者として、消費ニーズとは何か、育種とは何かといった事について考えさせられる機会となった。

戦前生れの品種が隆盛を誇る

<りんご>

「ふじ」はりんご結果樹面積の4割強、生産量は50万tで、全生産量の約半分を占めている。面積、生産量の第一位となっていて久しいが、「国光」を母とし、「デリシャス」を父として交配されたのは、今から50年余前の昭和14年である。交配地は青森県藤崎にあった園芸試験場東北支場である。

当時の試験設計書によると、この組合せは、栽培面積の約4割を占めていた国光に代わる品種として、栽培容易で、芳香を有し、着色が良く、貯蔵性のあるものを育成することを目指している。母方の国光は晩生品種で、品質はやや不良。甘味はやや強、果汁も少ないが貯蔵性では他の品種の追隨を許さないものとして評価されていた。一方父方のデリシャスは、糖度が高く香りがあって肉質も良いが、日持ちに問題があった。育種開始直後から日中戦争・第二次大戦があり、研究者も多数兵役に服したこともあって、管理は粗雑となり、初結実をみたのは昭和26年である。後述のコシヒカリと同様困難な時代を乗り切って日の目をみたものである。

結実開始直後から糖度が高く、香りがよく、果汁も多く貯蔵性にも優れることから注目されたが、着色に難があり慎重な調査が進められたという。ふじ（農林1号）として命名登録され、広く栽培に供されるようになったのは昭和37年からである。リンゴの様に古くから品質が問われた作物にあって、ふじは消費ニーズの変化に対応したさがけとってよかろう。それにしてもりんごなど果物は不要不急、味など二次的、といわれた時代の中でこれを育ててきた研究者の努力は大変なものであったと思う。

<水 稲>

「コシヒカリ」は、作付50万ヘクタールを超え、全水稻作付面積の約3割、ダントツ一位の品種である。食味は抜群、自主流通米市場でも常に最高値を示し、奨励品種として採用している県も30県を超える。「農林22号」を母とし、「農林1号」を父として交配されたのは、終戦間近の昭和19年である。交配地は長岡にあった新潟県農試指定試験地である。翌20年は終戦の混乱の中にあって種子のまま保存され、22年の

F₂から31年のF₁₁が新潟、千葉の両県で奨励品種として採用され、コシヒカリと命名されるまでの間、福井県農試で指定試験として選抜、育成された。コシヒカリは終戦時の混乱期、23年、田植直後に発生した福井大地震という二度の危機を乗り切って日の目をみたものである。母方の農林22号は、晩生、長稈、良質で特にイモチに強いことからイモチ多発地帯の中国地方山間部で作付されていた。一方、父方である農林1号は、多収、短稈、良質であるがイモチに弱く、この農林1号にイモチ抵抗性と強稈性をつけることが育種の主要目標であった。安全多収が主で、食味への欲求が顕在化していなかった終戦直後に、イモチに弱く、倒伏しやすいコシヒカリはある意味では欠陥品種として淘汰されてもおかしくないものであった。選抜に当たった、当時の福井農試の石墨氏は、熟期の葉色が鮮明であった点に引かれて残したという。新潟県では奨励試験の結果、コシヒカリは多肥で倒伏しても稈は生き残っており、穂発芽せず収量が安定して高いことを評価して、31年に奨励品種に採用している。かつて、新潟産米は「鳥またぎ米」といわれる程質的に不評の時期があり、品質面の配慮も当然あったと思われるが、安定、多収が第一に買われた点であろう。その後、米の過剰基調が強まる中で食味の良さが評価され、命名登録されて40年になるという今日、依然他品種を圧倒する人気を博している。もちろん欠陥の多いこの品種を作りこなす栽培技術の改善があつてのものである。コシヒカリの農林番号は100である。昨年6月ポストササニシキとして世上注目の中に名乗りをあげた「ひとめばれ」は農林313号である。コシヒカリ以降、国（指定試験を含む）だけでも200以上の品種が出現したことになる。そのひとめばれもコシヒカリ

の血が4分の3入っている。今の食味嗜好が変わらない限り北陸で生れたコシヒカリを超える品種の出現は難かしいともいわれている。現在各県では、競ってコシヒカリを超える食味の品種づくりが進められている。コシヒカリの持つ食味への志向はいつまで続くのであろうか。あまりにもコシヒカリの味にこだわった育種にこだわりの様なものを感じている。

＜小麦＞

「小麦農林61号」も戦前に交配されたものである。小麦作付面積25万haの約3割、都道府県でみると約5割と依然作付の大宗を占めている。「新中長」を母とし「福岡小麦18号」を父として交配されたのは昭和9年である。交配地は福岡県にあった農林省九州小麦試験地である。F₄から佐賀県農試に引きつがれ、19年、佐賀県で奨励品種に採用され、命名登録されている。

母方の新中長は、昭和15年頃広く普及していたが、さび病に弱く、稈も弱かった。父方の福岡小麦18号は、晩生で赤かび病には弱いが、短稈多けつで黄さび病やコムギ縮萎病に強かった。九州小麦試験地の当時の育種目標は、早生、短稈多収、各種病害抵抗性、粉質の良質化、高製粉歩留等となっている。

できあがった農林61号は晩生、長稈で倒伏に弱いにも拘らず、収量、病害抵抗性、穂発芽性等栽培特性が安定し、広域適応性のあることが、未だ広範に作付されている因であろう。小麦への消費ニーズは「ふじ」「コシ」とは異り実需者である製粉業者のニーズである。業界での品質ランクは中の中。現在、ASW並の品質を持つ品種の育成が強く求められており、近い将来61号に取って代わる品種の出現が期待されている。

「ふじ」「コシ」はめまぐるしい世情の移り

変わりの中で、消費ニーズに叶うものとして隆盛を誇り、また「61号」は、現時点では質的には十分でないとの評価を受けながら生き残っている。いずれも戦前生れの代表且つ偉大な品種である。あげれば、その他にもこの様な品種がいくつかある。

作物育種は、その時々々の農業や食糧をとり巻く情勢を背景として目標が設定され、取り組まれている。今日ではいうまでもなく消費ニーズに即した品質（食味、加工適正等）が最重要目標とされる。育種は長期を要するものであり、育種の過程で消費ニーズも変わる。その意味で消費の動向がどの様に変っていくか、長期的な展望が重要であると共に、単に決められた路線の上で育種を進めればよいというものではない。育種者に応用動作が要求される。偶然といった要素もあり興味深い。

消費ニーズとは

需要に即した農業生産が必要、売れるものを作る、消費ニーズを的確に把握するといった言葉が世の中にはん乱している。時代の要請として至極あたりまえのことであろう。生産の現場では、売れるものへの作付転換が図られる一方、消費者を新たに引きつけるものはないか種々懸命の努力がされている。

技術会議では平成2年に、今後の研究開発の指針として「農林水産研究基本目標－国際化時代における農林水産研究の重点化方向」を策定した。

これは、農林水産物の内外価格差、需給の不均衡、消費ニーズの高度化、多様化、バイオテク等先端技術の急速な進展等の情勢変化を背景として58年に策定された基本目標を見直したものである。5本の柱で整理されている基本目標の

第一にあげられているのが、「農林水産物の高品質化及び多様化による消費ニーズへの対応」である。消費ニーズを的確に把握するとともに品質の評価手法を開発し、高品質化、多様化に対応した研究開発を進める必要があるとされている。作物育種もこの方向を目指すべきことはいうまでもない。では改めて消費ニーズとは何かと問われると説明は難しい。消費ニーズを現在の消費者のニーズと限って考えてみても、まず価格が適当な水準であるとして、品質の良いもの、安全なもの、健康に良いもの、新鮮なもの、貯蔵性の良いものなど多くの要素があげられる。

品質の良いものとは、まず食味が良く、色沢、形状などの外観に優れるもの、安全なものとは農薬やかびなどの微生物に汚染されていないもの、健康に良いものとは栄養的価値だけでなく最近では整腸・血圧降下など体調節成分を含むものといったことであろう。新鮮なもの、貯蔵性等については説明を要しない。

品質の中で、食味を第一にあげたが、では食味とは何かといわれるとこれも答えが難しい。農産物の種類、用途によってその中味が異なることはもちろん、人の嗜好に係わる面も大きい。食味を客観的に評価する手法も確立されていない。

食品（物）には三つの機能があるとされる。第一の機能とは蛋白、脂肪、炭水化物といったいわゆる栄養素に係わるもの、身体に対して果たす機能である。第二の機能とは、味、香りといった食品（物）の持つ特異構造が感覚に訴える機能であり、第三の機能とは食品に含まれる成分が身体の調節等に果たす機能である。

前述の、消費ニーズについての一般的な見方とは別の観点でいえば食品（物）のもつ第二次

機能、第三次機能が消費ニーズとして求められている時代といつてよいように思う。これらを、消費ニーズとして育種の目標に取り入れなければならない難しい時代である。

消費ニーズに即した作物育種

前述の様に、消費ニーズに即した農産物生産を行うため、生産現場では需要に合った作物や、品種の選択、肥料農薬を減らすことによる高付加価値化、新たな需要を開拓するための新作物導入など様々な努力がなされている。一方、研究面では、これら現場の要請に対応したより高品質品種の育成や栽培技術の確立、新たなニーズを創り出す食品（物）の機能性に関する研究、鮮度保持等各種ポストハーベスト技術開発等が求められている。これらは、現時点で整理される各種の消費ニーズ、すなわち当面のニーズを踏まえて行われているといつてよい。難しいのは10年、20年後のニーズをどの様に把握し、それに向って研究を進めるかであろう。

農業技術の中でも新品種の開発が生産に与えるインパクトは大きい。一方、新品種開発には長期を要するという宿命がある。

技術会議では、前述の様に作物育種を推進するための新たな基本計画作りに着手している。最近の農業や食品産業を取り巻く情勢の変化への対応、組換えDNA技術の実用化、バイオへの適応可能作物の増加、育成者に対する権利保護の拡大などを背景として61年に作られた計画を見直すものである。稲、麦、イモ類など12の作物分野について、概ね10年後の育種目標を出来る限り具体的、段階的に作成しようというのが今回の主眼である。

目標の設定に当たっては、消費ニーズへの対応を第一の考慮事項としている。「ふじ」「コ

シ」「61号」の来歴でもふれた様に、育種開始時点での目標と、できあがり時点のニーズとは必ずしも一致しない。消費ニーズは時代と共に変わるのである。過去の農産物に対するニーズをみても、限りなく量が重要な時代から限りなく質が要求され、多様な種類が求められる時代になっている。飽食の時代にあって、食品分野でも、新商品が生まれてはすぐ消えるほど世の中の動きは激しい。

今後、育種年限の大巾な短縮を可能とする技術開発の進展も期待されるが、地域性を加味して普及まで考えると米、麦でも10年、果樹では20年といった歳月は当分必要であろう。一度目標を定めて動き出すとあと戻りや方向転換は容易でないことを考えると育種基本目標は極めて重要である。その意味でまずニーズの変化をどの様に予測し目標に反映させるか大いに気になるが、縷々述べた様に簡単でない。

先に述べた試験研究基本目標においても、国内外の農林水産物の消費構造の変動要因や需給動向の分析、農林水産物の生産、流通構造等の展開方向についての調査研究の重要性が指摘されている。とはいっても、これを行うには大変な時間と労力を要しよう。農水省で行っている農産物の長期需給見通しを例に引くまでもなく、予測があたるとは限らない。予測できないと研究はできないというわけにもいかない。

消費ニーズと育種目標に限っていえば、当面、現在のニーズを可能な限り整理、分析し将来の予測を行いこれを指針として育種をすすめてもらうしかない。一方、育種関連研究として消費ニーズやニーズの将来予測手法、といった問題についての調査研究、更には、いわゆる品質の重要性は不変と考えられるので、これを迅速、簡便且つ客観的に評価するための技術

開発を早急に進める必要がある。これらは今後の育種研究を効率的に進めるための鍵になるものであろう。

また、「ふじ」や「コシ」、更には「61号」の育成経過と今日の状況をみる時、その中にも多くの教訓が含まれている様に思う。これらの品種が生き残った背景には偶然とか運といった要素もあるが、何にもまして育種に携わった研究者のたゆまぬ努力とけい眼、そして、生産者や栽培研究者の努力がある。消費ニーズを含め、将来見通しがつき難い中での作物育種は、単に目標を設定し、これに沿った仕事を進めるだけでは不十分であろう。どのような状況になっても対応できる様な懐の深い仕事である必要がある。状況に応じ、常に多くのメニューが提供できるといった準備もその一つであろう。その意味で育種に携わる研究者には、従来にも増して、巾広い知識と融通性、更には、他分野の研究者との協調性といった資質が特に求められよう。育種目標において足らざる点は、育種に携わる研究者に補ってもらいたいと考える。

終 わ り に

正月「ふじ」をかじりながら、育種の素人が、作物育種と消費ニーズについて考えてみた。

そして、作物育種の成否は、他にも増して研究者自身に負うところが大きい、「育種は人なり」といった感を改めて持った次第である。

我が国農業は今や後継者問題や土地利用型農業など数多くの困難な問題をかかえている。技術開発に多くの期待が寄せられ、その中でも新品種の出現が待ち望まれている。「ふじ」が一時期のりんご農家の危機を救った。その様な品種が育種研究者の格段の努力で一日も早く世に出ることを期待している。

Hoechst

**速くて、
しっかり**

ダブル
W効果の除草剤

- 速く効く、長く効くバスタ
- 人、作物、土、環境に優しいバスタ
- なんでも枯らすバスタ ●使いやすいバスタ

バスタ 液剤

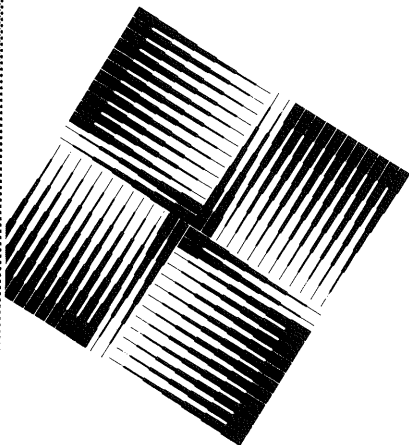
®・ドイツ・ヘキスト社の登録商標

バスタ普及会 石原産業／日本農薬／日産化学

〈事務局〉ヘキストジャパン株式会社 〒107 東京都港区赤坂8-10-16 ☎03(3479)4382

資料請求券

水田多年生雑草に、落水処理であざやかな効果



散布適期が広く、使いやすい除草剤

バサグラン®

粒剤(ナトリウム塩)、**液剤**(ナトリウム塩)

適用雑草 ●オモダカ・クログワイ・ミスガヤツリ・ウリカワ・シスイ、水田一年生広葉雑草等

効きめと安全の信頼にこたえる

住友化学

原体販売元＝住友化学工業
東京都中央区日本橋2丁目7番9号

バサグラン普及会

クミアイ化学工業・三共
サンケイ化学・日本農薬
北興化学工業・八洲化学工業
事務局＝住友化学工業

®は西ドイツBASF社の登録商標です。

文 献 抄 録

除草剤の土壤中の溶脱を減少させる補助剤の利用

Use of Adjuvants to Minimize Leaching of Herbicides in Soil.

Alva, A.K. and Singh, M.
Environ. Manage. **15** (2), 263～267 (1991).

除草剤の過剰の溶脱は、対象雑草への効果に影響を及ぼし、地下水の汚染にもつながる。除草剤の結合を弱め、放出をゆっくりとさせることができる補助剤の使用は、除草剤の効果を引き伸し、地下水への溶脱を少なくすることになる。活性炭、三種のフミン質あるいは合成重合体 (Hydrosorb) のプロマシル, dicamba, シマジンの Candler 細砂土をつめたカラム中の溶脱への影響を調べた。補助剤の添加は、その水の浸透に及ぼす影響が少ない証拠として土壌の物理性に対し有害な影響はなかった。補助剤を使わない時、処理した dicamba の 69%, bromacil の 37%, シマジンの 4 % が、溶脱液の最初の穴容積 (3.2 cm の降雨) で溶出した。溶脱液の 5 穴容積 (16 cm の降雨) で、プロマシルと dicamba の大部分とシマジンの 80 % が溶出した。Enersol 12% 補助剤を使うと、5 穴容積の溶脱液中の dicamba とプロマシルの溶脱は 13～18% 減少した。シマジンの溶脱は、5 種の補助剤のいずれかを使用した時、有意に減じた。しかし、溶脱の減少は、Enersol SP 85%, あるいは Enersol 12% を用いた時に、他の補助剤を使った時より有意に大きかった。

圃場土壌試料中のアトラジンおよびメトラクロール残留の吸着可逆性

Sorptive Reversibility of Atrazine and Metolachlor Residues in Field Soil Samples.

Pignatello, J. J. and Huang, L. Q.

J. Environ. Qual. **20**, 222～228 (1991).

有機化合物の土壌中の運命と輸送の予測は論理的な吸着モデルに依存する。化合物の運命に及ぼすゆっくりした可逆的 (非平衡) 吸着の影響は定量的に十分、分っていない。除草剤アトラジンとメトラクロールの残留を含む土壌試料を、これらの残留の吸着可逆性を評価するために最終処理 2～15 カ月後、採取した。原地の除草剤の吸着定数, K_{app} を 24 時間、試料を水に懸濁させた後、吸着物と溶液濃度から求めた。平衡吸着定数 K_d は、新しく添加した 24 時間の吸着等温線に、不安定な原地の除草剤 (f_L) のフラクションを読み取り、同じ試料により求めた。 K_{app}/K_d の比は 2.3 から 42 に変動し、残留の年令 (例えば最終処理から試料採取までの時間) と直接関係していた。 f_L の値は、0.056 から 0.60 の範囲にあり、残留の年令に反比例した。これらの結果は、圃場から採取した汚染土壌はゆっくり可逆的な吸着状態の大きな割合の汚染物を含むことが可能であり、このフラクションは、時間の経過につれて増加することを示している。

スペインのバレンシア地方の三か所の柑きつ園における土壌および井戸水中の除草剤の残留調査

Survey of Herbicide Residues in

Soil and Wells in three Citrus
Or chards in Valencia, Spain.

Barreda, D.G., Lorenzo, E. and
Carbonell, E.A.

Weed Res. **31**, 143~151 (1991).

残留性除草剤の長い処理経歴を持つ、バレンシアの三つの柑きつ園の異なる深さから土壌試料を、1989年の夏と1990年の冬に採取し、生物検定とクロマトグラフィーで分析した。除草剤には、アトラジン、ブロマシル、ジウロン、シマジン、ターブチラジン、ターブメトン、ターブチリン、トリフルラリンが含まれる。果樹園の井戸水もまた分析した。除草剤の濃度は非常に低く、しばしば、定量の検出限界以下であり、常に土壌の表層が最も高かった。異常なばげしい降雨後、若干の除草剤の少量が井戸水中に検出された。これらの果樹園における除草剤の最近の使用割合では、土壌のいずれの層にも蓄積する傾向は認められなかった。

2,4-DとMCPAの長期間の圃場施用が、 2,4-D, MCPA, Mecoprop, 2,4,5 -Tの土壌中分解に及ぼす影響

Effects of Long-Term 2,4-D and
MCPA Field Applications on the
Soil Breakdown of 2,4-D, MCPA,
Mecoprop, and 2,4,5-T.

Smith, A.E. and Aubin, A.J.

J. Environ. Qual. **20** (2), 436~
438 (1991).

2,4-D製剤を43回、あるいはMCPA製剤
を37回、毎年施用したカナダの prairie 試験
圃場の土壌を、最終処理6週後、採取して、
¹⁴C-標識した2,4-D, MCPA, mecoprop,
2,4,5-Tを加え、実験室条件下で分解を調べ

た。2,4-DとMCPAの消失は、無施用の対
照土壌よりも連用した土壌において早かった。

2,4-Dの消失は、MCPAを連用した土壌で
も早かった。反対に、MCPAの分解は、2,4
-D施用区と対照区ではほぼ同じであった。Me-
copropと2,4,5-Tの分解は、2,4-DとM
CPAを連用した区と対照区で差がなかった。

このように、最終の除草剤施用48週後、交互に
分解を増強する現象を支持する証拠はないが、
圃場土壌中には、2,4-DあるいはMCPAを、
対照土壌よりもより迅速に分解する能力がまだ
維持されていた。

かんがい水中の低濃度のアトラジンによる コヌカグサの被害

Creeping Bentgrass Damaged by
Low Levels of Atrazine in Irri-
gation Water.

Nus, J.L. and Sandburg, M.A.

Hort Sci. **26** (4), 392~394 (1991).

東部アメリカの北と南の気候が移り変わる地
域では、寒季と暖季の芝生が隣接して用いられ
る。暖季の芝生に対する発生前および発生後除
草剤として有効なアトラジンの耐性濃度を決め
るため creeping bentgrassの温室試験を
始めた。成熟および8週令の実生コヌカグサに、
アトラジンを0.01~2.56mg/l 含むかんがい
水を毎日、6.5mmの割合で灌水した。処理を
始めて20日後、実生では0.05mg/l で、成熟
体では0.08mg/l で、芝生の品質として受け
入れられない耐性濃度に達した。

除草剤および輪作が土壌と根圏微生物、作 物収量に及ぼす影響

Herbicide and Rotation Effects

on Soil and Rhizosphere Microorganisms and Crop Yields.
Moorman, T.B. and Dowler, C.
C.

Agr. Ecosyst. Environ. **35**, 311~325 (1991).

除草剤, トリフルラリンとアラクロールの長期間使用が作物収量と微生物数に及ぼす影響を圃場条件で, トウモロコシと大豆の連作および輪作で調べた。7回の以前の毎年の除草剤処理は, 土壌糸状菌, セルロース分解細菌, 蛍光性 *Pseudomonas spp.*, グラム陽性細菌の数に持続性の変化を生じない。両除草剤は, 土壌および根圏微生物の数に一時的な変動を起す。これらの微生物集団に及ぼす作物輪作の影響は, 作物残留を混入した後の採取時期に限られる。輪作した大豆の収量は, 連作よりも12%多かった。

バレイショ栽培品種のベンタゾンと作物油に対する感受性

Potato (*Solanum Tuberosum* L.)
Cultivar Response to Bentazon
and Crop Oil.

Love, S.L. and Haderlie, L.C.
Amer. Potato J. **68**, 331~342
(1991).

ベンタゾンを二つの割合で, 圃場において9種のバレイショ栽培品種へ, 作物油を添加したもの, あるいは無添加で, 二つの異なる高さの茎葉部へ処理した。ベンタゾン処理7日後, 葉の葉害は, 処理割合, 品種, 処理時の植物の高さにより0から36%であった。ベンタゾンの1.12 kg/haの割合の処理は, 0.84 kg/haの割合の処理に比べて, 生物学的に有意でない葉

の被害を2~4%増加したが, 雑草防除を有意に増加した。作物油のベンタゾンへの添加は, 葉の葉害を増加せず, 雑草防除を約2倍増加した。ベンタゾンの大きな植物体への処理は, 収量と品質を低下させる。多くの品種にとって, ベンタゾン1.12 kg/haと作物油2.3 l/haの8~15 cmの高さのバレイショの茎葉部への処理は, バレイショ塊茎の収量は有意に減少せず, 広葉雑草を74~85%防除できた。

土壌中の高濃度の除草剤に対する微生物応答

Microbial Responses to Large
Concentrations of Herbicides in
Soil.

Dzantor, E.K. and Felsot, A.S.
Environ. Toxicol. Chem. **10** (5),
649~655 (1991).

除草剤の流出が微生物活性に及ぼす影響を決めるため, 土壌を過剰量(10,000 mg/kg)のアラクロール製剤, あるいはアトラジン, メトラクロール, トリフルラリン製剤を混合して処理した。土壌は, また若干の除草剤混合物を正常な慣行量, 10 mg/kgの割合で処理した。模擬の流出の当初は細菌は阻害されたが, 7日後には, 細菌数は無処理区と同じレベルまで回復した。糸状菌数は処理1日後には極端に減少したが, 除草剤混合区では7日後, アラクロール単独処理区では21日後に回復した。デハイドロゲナーゼ活性は1日後には, 両区の高レベル除草剤処理区で, 激烈に低下し, 125日後も回復しなかった。エステラーゼ活性は, 除草剤混合区の土壌中では減少したが, 一般にアラクロール単剤処理区では影響がなかった。正常な処理濃度では細菌および糸状菌数に, あるいは土壌

のデハイドロゲナーゼおよびエステラーゼ活性に明白な影響はなかった。

土壤の地形と有機物に関連する除草剤の特有な吸着

Differential Sorption of Herbicides as Related to Soil Topography and Organic Matter.

Alva, A.K., Singh, M. and Anderson, C.A.

J. Environ. Sci. Health, **B 25** (5), 627~642 (1990).

8%の傾斜のかんきつ園のいろいろな場所から採取した表層土壌(0~15cm)および傾斜に沿って上部, 中部, 下部のいろいろな深さ(0~200cm)から採取した土壌によるプロマシルとシマジンの吸着を調べた。土層15cm土壌による両除草剤の吸着は, 上部から中部まで, かなり減少したが, 下部では増加した。土壌中の有機物含量とCa, Mg, K, P, Cuの濃度は, これらが傾斜の中部から移動している証拠と下部への蓄積を示した。傾斜に沿っていろいろな場所から採取した土壌による除草剤の示差吸着は, 有機物含量の変化に密接に関連した。プロマシルとシマジンの吸着は, 傾斜に沿っていろいろの場所でかなり変動したが, プロマシルの吸着は, 傾斜に沿った場所に関係なく, 深さ30cm以下の土壌ではほとんど同じであった。しかし, シマジンの場合は吸着は傾斜の下部のすべての深度の土壌で上部と中部の土壌よりも, かなり大きかった。両除草剤の吸着は, 傾斜に沿ったすべての場所で30cm以下の土壌で, かなり減少した。このように除草剤の溶脱の迅速性は土壌の縦断面に沿って増加する。

四種除草剤の Candler 細砂中の反応に及ぼす土壤陽イオン組成の影響

Effects of Soil-Cation Composition on Reactions of Four Herbicides in a Candler Fine Sand.

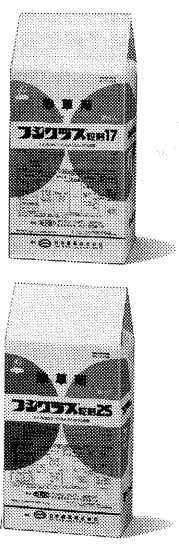
Alva, A.K. and Singh, M.

Water, Air, and Soil Poll. **52**, 175~182 (1990).

除草剤の土壌中の吸着, 持続性, 輸送は, 各種の土壌改良剤からの陽イオンで, どの程度飽和されているかに依存している。最新の調査で, フロリダの柑きつ地帯で, 普通に使われるプロマシル, シマジン, norflurazon, ジウロンのCandler細砂に対する吸着が, AlCl_3 , CaCl_2 , CuCl_2 , FeCl_3 , KCl 塩溶液による前平衡で, どの程度影響されるかの研究が行われた。

土壌を FeCl_3 か AlCl_3 かのいずれかで前平衡すると, 吸着は有意に減じた。従って, 四除草剤すべての溶脱性は, 無処理の土壌における吸着に比べて増加した。この吸着の減少は, プロマシルとシマジンで(24~34%), norflurazon とジウロン(7~8%)よりも大きかった。プロマシルとジウロンの1M酢酸アンモニウムによる脱着はまた FeCl_3 あるいは AlCl_3 で前平衡した土壌において無処理土壌よりも有意に減じた。しかし, シマジンと norflurazon の場合は, 反対であった。土壌を CuCl_2 , KCl , CaCl_2 で前平衡すると, norflurazon, ジウロン, シマジンの吸着は有意に減じたが, プロマシルの吸着は影響されなかった。従って, 吸着陽イオンの種類は, 各除草剤の吸脱着に対し異なる影響を持ち, 除草剤の溶脱性は変化する。

財)日本植物調節剤研究協会 技術顧問 金澤 純



水田除草に一発解答。

効きめに、安全性に、
実績が光るフジグラス。



初・中期一発処理除草剤 **フジグラス[®]粒剤**

®:「フジグラス」は登録商標です。

●フジグラス粒剤の特長

- ① 幅広い雑草にすぐれた効果を示します。
- ② 多年生の難防除雑草にもよく効きます。
- ③ 処理適期幅が広く、散布に余裕がもてます。
- ④ 抑草期間が長く、一発処理ができます。
- ⑤ 水稲に安全性が高く、安心して使えます。

●使用薬量
10アール当り 3kg。

●使用適期 田植後5日～15日(ノビエ2.5葉期)が使用時期ですが、ノビエ2葉期の処理がもっともすぐれた効果を発揮します。



フジグラス普及会
日本農業株式会社 デュポン ジャパン リミテッド
アイ・シー・アイ・ジャパン株式会社
事務局：日本農業株式会社 東京都中央区日本橋1丁目2番



水田雑草、新時代。

「確かさ」で選ぶ…
バイエルの農薬

新しい時代のヒエ剤[®] **ヒノクロア粒剤**

水田初・中期一発処理除草剤
処理適期幅が広く効果的



ザーク[®]粒剤



シンザン[®]粒剤



アクト[®]粒剤

水稲用中期除草剤

クロアSM粒剤

®は登録商標

Bayer



日本バイエルアグロケム株式会社
東京都中央区日本橋本町2-7-1 ☎103

バイエル農薬をお届けして50年。
日本特殊農薬の社名が変りました。

【ポラリス】 だったら、 5満足。

ポラリスはここが満足。
数えたら、5つありました。

- ① いろいろな雑草に効きます。
- ② 効きめじっくり、効果は長持ち。
- ③ サラッと撒いて、ラクに使えます。
- ④ 人にも自然にも安心成分です。
- ⑤ 値段もお手頃、経済的です。

• 詳しい資料をご希望の方は、下記住所までご請求ください。

ポラリス普及会 塩野義製薬株式会社・北興化学工業株式会社

事務局 日本モンサント株式会社 アグロサイエンス事業部 〒100 東京都千代田区丸の内3-1-1 国際ビル Tel.(03) 287-1251

水田・畑・家まわりの除草に。
黄色いボトルで新登場。



らくらく散布で多年草も防除



容器のまま代かき時に

散布できる水田除草剤

デルカット®

(オキサジアゾン・ブタクロール除草剤)

乳剤

★安全で省力的な機械散布もできます。

——— デルカット普及会 ———

日産化学・北興化学・ローヌ・プーラン アグロ・日本モンサント
〈事務局〉 日産化学工業(株)農業事業部内 東京都千代田区神田錦町3-7-1

®：日本モンサント(株)登録商標

平成 3 年度水稲作関係 除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成 3 年度水稲作関係除草剤試験成績中央検討会は、平成 3 年 12 月 12～13 日の 2 日間、植調会館会議室において開催された。なお、適 1 試験は中央検討会に先がけ、平成 3 年 10 月 4 日植調会館にて開催された。これらの成果の概要を報告する。

1) 第 1 次適用性試験 (適 1) 成績について

平成 3 年度の適 1 試験は、北海道地域 (植調北海道試験地)、東北地域 (植調古川試験地)、北陸地域 (植調新潟第 1 試験地)、関東地域 (植調研究所)、近畿地域 (植調滋賀試験地)、中国地域 (植調広島試験地)、九州地域 (植調佐賀試験地) の全国 7 地域で 76 薬剤 (のべ 366 点) について実施した。その判定結果は、第 1 表のとおりである。

2) 第 2 次適用性試験 (適 2) 成績について

平成 3 年度の適 2 試験は、次のような試験区

分で実施した。すなわち、稚苗移植栽培の移植前土壌混和处理 (Ⅱ-1, 6 剤 74 点)、移植前後土壌処理 (Ⅱ-2, 8 剤 115 点)、移植後土壌処理 (Ⅱ-3, 10 剤 92 点)、茎葉兼土壌処理 (Ⅱ-4, 1 剤 12 点)、適用時期拡大 (Ⅱ-5, 6 剤 57 点)、特殊雑草防除 (Ⅱ-6, のべ 80 剤 237 点)、湛水直播栽培用 (Ⅲ-1, 6 剤 48 点)、乾田直播栽培用 (Ⅲ-2, 5 剤 17 点)、畦畔雑草用 (Ⅳ, 8 剤 35 点)、耕起前雑草用 (Ⅴ, 3 剤 9 点)、初期一発処理剤 (Ⅶ-1, 41 剤 420 点)、初・中期一発処理剤 (Ⅶ-2, 19 剤 272 点)、長期持続型一発処理剤 (Ⅶ-3-1), 10 剤 71 点)、一年生持続型除草剤 (Ⅶ-3-2), 3 剤 34 点)、少量散布 (Ⅷ, 9 剤 49 点) の総のべ点数が 1,542 点であった。これら適 2 試験の判定結果は第 2 表、使用基準は第 3 表のとおりである。

第 1 表 平成 3 年度水稲作関係除草剤適 1 試験成績判定結果一覧表

No	薬剤名・剤型 〔委託者名〕	有効成分および 含有率 (%)	試験実施場所別総合評価							中央判定結果 〔今後の課題点等〕
			北海道	東北	北陸	関東	近畿	中国	九州	
1	AKD-7026-1kg 粒 〔アグロカネショウ〕	KH-218 6 ペンシルフロンメチル 0.75 ACN 9	○	□						寒地・寒冷地北部□、ノビエ 1.5L まで (初期一発処理剤) 〔多年生雑草に対する効果確認〕

No.	薬 剤 名 ・ 剤 型 〔 委 託 者 名 〕	有効成分および 含有率 (%)	試験実施場所別総合評価							中 央 判 定 結 果 〔 今 後 の 課 題 点 等 〕
			北 海 道	東 北	北 陸	関 東	近 畿	中 国	九 州	
2	CG-187 粒 〔 日本チバガイギー 〕	シノスルフロン 0.08 未公開 (既知) 7 プレチラクロール 1.5		○	○	□	○			寒冷地・温暖地□, ノビエ2Lまで(一年生雑草, マツバイ, ホタルイ) 〔 一年生持続型除草剤としての効果の持続性 〕
3	CH-902-1kg 粒 〔 中外製薬 〕	CH-900 1.9 未公開既知 9	□	○	○	□				寒地～温暖地東部□, ノビエ1.5Lまで(一年生雑草, マツバイ, ホタルイ) 〔 広葉雑草に対する効果, 薬害の検討(寒地) 〕
4	DEH-112 粒 〔 ダウエランコ 〕	未公開 0.6	○	△	○	□		○		寒地～温暖地□, ノビエ3.5Lまで(ノビエ) 〔 混合母剤としての検討 〕
5	DEH-112-1kg 粒 〔 ダウエランコ 〕	未公開 1.8	○		○	□		□		寒地～温暖地□, ノビエ2～3Lまで(ノビエ) 〔 混合母剤としての検討, 効果確認 〕
6	DEH-112 乳 〔 ダウエランコ 〕	未公開 30	□	△	○	□		□		寒地～温暖地□, ノビエ3.5Lまで(ノビエ) 〔 混合母剤としての検討, 薬量・効果の確認 〕
7	DJL-911 粒 〔 デュポン・ジャパン 〕	未公開	□	○	○	○	○	○	○	全域□, ホタルイ2Lまで(一年生広葉雑草, マツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガヤツリ) 〔 混合母剤としての検討, 多年生雑草に対する効果確認(寒地・寒冷地北部) 〕
8	DJL-912 粒 〔 デュポン・ジャパン 〕	未公開	□	○	○	○	○	○	○	全域□, ホタルイ2Lまで(一年生広葉雑草, マツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガヤツリ) 〔 混合母剤としての検討, 多年生雑草に対する効果確認(寒地・寒冷地北部) 〕
9	DJL-915 粒 〔 デュポン・ジャパン 〕	未公開	□	○	○	○	○	□	○	全域□, ホタルイ2Lまで(一年生広葉雑草, マツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガヤツリ) 〔 混合母剤としての検討, 多年生雑草に対する効果確認(寒地・寒冷地北部) 〕
10	HOK-911 乳 〔 北興化学 〕	未公開 18	○	○	○	○	○	◎	○	全域□, 植代時(一年生雑草, マツバイ, ホタルイ) 〔 効果の持続性 〕

No.	薬 剤 名 ・ 剤 型 〔 委 託 者 名 〕	有効成分および 含有率 (%)	試験実施場所別総合評価							中 央 判 定 結 果 〔 今 後 の 課 題 点 等 〕
			北 海 道	東 北	北 陸	関 東	近 畿	中 国	九 州	
11	HOK-912 フロアブル 〔 北興化学 〕	未公開 3.4	○	○	○	○	○	○	□	全域○, ノビエ2Lまで(初期一 発処理剤)
12	HOK-913 乳 〔 北興化学 〕	未公開 5 未公開 15	○	□ △	○	○	○	◎	○	全域□, 植代時(一年生雑草, マ ツバイ, ホタルイ)
13	HOK-915 粒 〔 北興化学 〕	未公開 6.55	○	○						寒地・寒冷地北部○, ノビエ2L まで(初期一発処理剤)
14	HOK-915① 粒 〔 北興化学 〕	未公開 6.37			○	○	◎	○	□	寒冷地南部以西○, ノビエ2Lま で(初期一発処理剤)
15	JMH-13 粒 〔 保土谷化学 〕	未公開 13	○	□	□	◎	○	○	□	全域□, ノビエ1.5Lまで(初期 一発処理剤) 〔 広葉雑草に対する効果向上 〕
16	KPP-2006フロアブル 〔 科研製薬 〕	新 規 4.5 既 知 12	□	△	◎	○	○	◎	□	全域□, 雑草発生前(一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガヤツリ) 〔 薬害の検討. 多年生雑草に対す る効果確認 〕
17	KPP-2007フロアブル 〔 科研製薬 〕	新 規 4.5 既 知 10 既 知 10	□	△	◎	○	○	◎	○	全域□, 雑草発生前(一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガヤツリ) 〔 薬害の検討. 多年生雑草に対す る効果確認 〕
18	MTS-1(A)フロアブル 〔 エス・ディー・エス, 三井東圧 〕	CNP 18 ダイムロン 14	□	○				○	○	全域○, 雑草発生始まで(一年生 雑草, マツバイ, ホタルイ)
19	MTS-1(B)フロアブル 〔 エス・ディー・エス, 三井東圧 〕	CNP 18 ダイムロン 14	○	○				○	○	全域○, 雑草発生始まで(一年生 雑草, マツバイ, ホタルイ)
20	MY-911① 粒 〔 三菱油化 〕	未公開(3種) 6.75	○	○		○				寒地・寒冷地北部○, ノビエ2.5 Lまで(初・中期一発処理剤)
21	MY-911 粒 〔 三菱油化 〕	未公開(3種) 6.67	□	□	○	○	□	○	□	全域□, ノビエ2.5Lまで(初・ 中期一発処理剤) 〔 薬害の検討(近畿) 〕
22	MY-913 フロアブル 〔 三菱油化 〕	未公開(3種) 21.25	○	△	○	○	○	○	○	全域□, 雑草発生前(一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガヤツリ) 〔 多年生雑草に対する効果確認. 薬害の検討 〕

No	薬 剤 名 ・ 剤 型 〔 委 託 者 名 〕	有効成分および 含有率 (%)	試験実施場所別総合評価							中 央 判 定 結 果 〔 今 後 の 課 題 点 等 〕
			北 海 道	東 北	北 陸	関 東	近 畿	中 国	九 州	
23	NC-311DK 粒 〔 日産化学 〕	ピラゾスルフロンエチル 0.07 KPP-314 1.5 未公開		△ 〓 □		○		□	□	△～□ 〔 薬害の検討 〕
24	NC-326④ 粒 〔 日産化学, 日本モンサ ント, アイ・シー・ア イ 〕	ピラゾスルフロンエチル 0.07 エスプロカルブ 7 ジチオピル 0.2				○	□	□	○	温暖地・暖地□, ノビエ2.5 Lま で(初・中期一発処理剤) 〔 薬害の検討 〕
25	NC-329 粒 〔 日産化学, 日本チバガ イギー 〕	ピラゾスルフロンエチル 0.07 エスプロカルブ 5 プレチラクロール 1.5 ジメタメトリン 0.2	○	◎	◎	◎	□	□	□	寒地～温暖地西部◎, ノビエ2.5 Lまで(初・中期一発処理剤) 温暖地西部以西□, 〔 薬害の検討 〕
26	NC-329-1kg 粒 〔 日産化学, 日本チバガ イギー 〕	ピラゾスルフロンエチル 0.3 エスプロカルブ 15 プレチラクロール 4.5 ジメタメトリン 0.6	○	○	◎	◎	◎	○	□	寒地・寒冷地◎, 温暖地○, ノビ エ2.5 Lまで(初・中期一発処理 剤) 暖地□, 〔 薬害の検討 〕
27	NC-332 フロアブル 〔 日産化学 〕	未公開 5.8	○	□	◎	○	□	○	◎	全域□, ノビエ2 Lまで(初期一 発処理剤) 〔 薬害の検討 〕
28	NC-333-1kg 粒 〔 日産化学 〕	未公開 1.5		□		○		○	□	全域□, ノビエ2 Lまで(初期一 発処理剤) 〔 効果, 薬害の検討 〕
29	NCH-903 粒 〔 日産化学, 中外製薬 〕	ピラゾスルフロンエチル 0.07 CH-900 1	□	○	◎	○	□	○	□	全域□, ノビエ2.5 Lまで(初・ 中期一発処理剤) 〔 薬害の検討 〕
30	NCH-903-1kg 粒 〔 日産化学, 中外製薬 〕	ピラゾスルフロンエチル 0.3 CH-900 3	□	○	◎	○	□	○	□	全域□, ノビエ2.5 Lまで(初・ 中期一発処理剤) 〔 薬害の検討 〕
31	NH-9107 粒 〔 日本農薬 〕	既 知(3種) 7.55	○	○						寒地・寒冷地北部□, ノビエ2.5 Lまで(長期持続型一発処理剤) 〔 残効性の検討, 初・中期一発処 理剤としては○ 〕
32	NH-9108 粒 〔 日本農薬 〕	既 知(3種) 7.47			○	○	◎		○	寒冷地南部以西□, ノビエ2.5 L まで(長期持続型一発処理剤) 〔 残効性の検討, 初・中期一発処 理剤としては○ 〕

No.	薬剤名・剤型 〔委託者名〕	有効成分および 含有率 (%)	試験実施場所別総合評価							中央判定結果 〔今後の課題点等〕
			北海道	東北	北陸	関東	近畿	中国	九州	
33	NH-9109 粒 〔日本農薬〕	既知(3種) 5.37			○	○	◎		□	寒冷地南部以西□, ノビエ2.5L まで(長期持続型一発処理剤) 〔残効性の検討, 初・中期一発処理 剤としては○〕
34	NSK-855 フロアブル 〔徳山曹達〕	未公開 6.5	△	△						寒地・寒冷地北部△ 〔効果, 薬害の検討〕
35	NSK-855 ⑩フロアブル 〔徳山曹達〕	未公開 6.2	△	○						寒冷地北部○, ノビエ2Lまで (初期一発処理剤) 寒地△, 〔効果の検討〕
36	NSK-855 ⑪フロアブル 〔徳山曹達〕	未公開 6			○	○	○	◎	○	寒冷地南部以西○, ノビエ2Lま で(初期一発処理剤)
37	SW-911 袋 〔三共〕	ピラゾレート+A+B	○	□	□	○	○	◎	□	全域□, ノビエ1Lまで(一年生 雑草, マツバイ, ホタルイ, ウリ カワ, ミズガヤツリ) 〔実用試験規模での検討〕
38	SW-914 袋 〔三共〕	未公開 合計 32.7	□	□	□	○	○	○	○	全域□, ノビエ1.5Lまで(一年 生雑草, マツバイ, ホタルイ, ウ リカワ, ミズガヤツリ) 〔実用試験規模での検討〕
39	SW-912-1 kg 粒 〔三共〕	未公開 4.5 既知 12 既知 12	○	□	□	◎	○	◎	○	全域□, ノビエ1Lまで(一年生 雑草, マツバイ, ホタルイ, ウリ カワ, ミズガヤツリ) 〔効果, 薬害の検討〕
40	SW-913 粒 〔三共〕	未公開(5種) 8.7	○	○	◎	◎	△	□	□	寒地～温暖地東部○, ノビエ2L まで(初期一発処理剤) 温暖地西部以西□, 〔薬害の検討〕
41	TDH-888 ⑩フロアブル 〔東ソー〕	未公開 13.5	○	□ △						寒地・寒冷地北部□, ノビエ2L まで(初期一発処理剤) 〔薬害の検討〕
42	TDH-888 フロアブル 〔東ソー〕	未公開 13.3	□	△	○	○	○	○	○	全域□, ノビエ2Lまで(初期一 発処理剤) 〔効果・薬害の検討〕
43	TDH-888 ⑪フロアブル 〔東ソー〕	未公開 13			○	○	○	○	○	寒冷地南部以西○, ノビエ2Lま で(初期一発処理剤)
44	TH-913ADS 粒 〔武田薬品, チバガイギ ー, エスディーエス〕	TH-913 0.3 ソルネット 2 ダイムロン 5 ジメタメトリン 0.15	○	○	◎					寒地・寒冷地○, ノビエ2Lまで (初期一発処理剤)

No	薬 剤 名 ・ 剤 型 〔 委 託 者 名 〕	有効成分および 含有率 (%)	試験実施場所別総合評価							中 央 判 定 結 果 〔 今 後 の 課 題 点 等 〕
			北 海 道	東 北	北 陸	関 東	近 畿	中 国	九 州	
45	TH-913ADS① 粒 〔 武田薬品, チバガイギ- ー, エスディーエス 〕	TH-913 0.3 ソルネット 1.5 ダイムロン 5 ジメタメトリン 0.2	○	○	◎	◎	○	◎	○	全域○, ノビエ2Lまで(初期一 発処理剤)
46	TH-913ADSC 粒 〔 武田薬品, チバガイギ- ー, エスディーエス 〕	TH-913 0.3 エスプロカルブ 7 ソルネット 1.5 ジメタメトリン 0.2	○	○	○ { ◎	◎	△	□	○	温暖地東部以北○, ノビエ2.5L まで(初・中期一発処理剤) 温暖地西部以西□, (薬害の検討)
47	TH-913HW 粒 〔 武田薬品, 保土谷化学 〕	TH-913 0.3 HW-52 5	○	□	○ { ◎	○	○	○	◎	全域□, ノビエ2Lまで(初期一 発処理剤) 〔 効果の確認 〕
48	TH-913HSK 粒 〔 武田薬品, 保土谷化学 〕	TH-913 0.3 HW-52 5 ダイムロン 5	○	○	○ { ◎	○	○	◎	○	全域○, ノビエ2Lまで(初期一 発処理剤)
49	TH-913SSC 粒 〔 武田薬品, エスディー エス 〕	TH-913 0.3 エスプロカルブ 7 ダイムロン 5	○	○	◎	◎	○	◎	○	全域○, ノビエ2.5Lまで(初・ 中期一発処理剤)
50	TH-913ST フロアブル 〔 武田薬品, 東ソー, エ スディーエス 〕	TH-913 1.7 ピリブチカルブ 12 ダイムロン 27.5	□	□	○	○	○	◎	◎	全域□, ノビエ1.5Lまで(初期 一発処理剤) 〔 ノビエに対する効果の持続性 〕
51	TJM-162 フロアブル 〔 東ソー, 三菱油化, 日 本カーリット 〕	ピリブチカルブ 10 JC-940 16 クロメプロップ 2	○	□	□	○	○	○	□	全域□, ノビエ1.5Lまで(一年 生雑草, マツバイ, ホタルイ) 〔 効果の検討 〕
52	TSR-121 フロアブル 〔 東ソー 〕	ピリブチカルブ 10 プロモブチド 12 ビフェノックス 1	□	□	□	○	○	○	□	全域□, ノビエ1~1.5Lまで (一年生雑草, マツバイ, ホタル イ) 〔 効果の検討 〕
53	CG-113-1kg 粒 〔 日本チバガイギ- 〕	プレチラクロール 4	○ { □	○	○	○	□	○	□	全域○, 3kg剤の2kg/a処理と 同等, ノビエ1Lまで(一年生雑 草, マツバイ, ホタルイ)
54	DM-72-1kg 粒 〔 北興化学 〕	ジチオビル 1.2 ベンスルフロンメチル 0.75	□	○						寒地・寒冷地北部□ 〔 製剤検討 〕
55	DM-72①-1kg 粒 〔 北興化学 〕	ジチオビル 1.2 ベンスルフロンメチル 0.51			○	○	○	□	□	寒冷地南部以西○, 3kg剤と同等, ノビエ1.5Lまで(初期一発処理 剤)
56	KH-255①-1kg 粒 〔 アグロカネショウ 〕	KH-218 6 ベンスルフロンメチル 0.5			○	○	○	○	□	寒冷地南部以西○, 3kg剤と同等, ノビエ2Lまで(初期一発処理剤)

No.	薬剤名・剤型 〔委託者名〕	有効成分および 含有率 (%)	試験実施場所別総合評価							中央判定結果 〔今後の課題点等〕
			北海道	東北	北陸	関東	近畿	中国	九州	
57	KPP-314-1kg 粒 〔科研製薬〕	新規 4.5		○		○			○	全域○, 3kg剤と同等, 雑草発生前(一年生雑草)
58	KPP-2005-1kg 粒 〔科研製薬〕	新規 4.5 既知 15		○		○			○	全域○, 3kg剤と同等, 雑草発生前(一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ミズガヤツリ)
59	MO-338-1kg 粒 〔三井東圧化学〕	CNP 27		○		○	□		○	全域○, 3kg剤と同等, ノビエ1Lまで(一年生雑草)
60	MTS-1-1kg 粒 〔エスディーエス, 三井東圧〕	CNP 27 ダイムロン 21		○		○		△	○	全域□ 〔3kg剤とほぼ同等だが一部効果の検討を要す〕
61	NC-311-1kg 粒 〔日産化学〕	ピラゾスルフロンエチル 0.3	△	○	○	○	□	○	◎	全域□, 3kg剤と同等 〔混合母剤としての検討〕
62	NC-311CG-1kg 粒 〔日産化学, 日本チバガイギー〕	ピラゾスルフロンエチル 0.3 プレチラクロール 6	□	○	○	○				寒地～温暖地東部○, 3kg剤と同等, ノビエ2Lまで(初期一発処理剤)
63	NC-311CG④-1kg 粒 〔日産化学, 日本チバガイギー〕	ピラゾスルフロンエチル 0.3 プレチラクロール 4.5					○	○		温暖地西部○, 3kg剤と同等, ノビエ2Lまで(初期一発処理剤)
64	NC-311HW-1kg 粒 〔保土谷化学, 日産化学〕	ピラゾスルフロンエチル 0.3 HW-52 15	○	△	○	○	○	○	◎	寒地～温暖地東部□, (効果の確認) 温暖地西部以西○, ノビエ2Lまで(初期一発処理剤)
65	NC-311SC④-1kg 粒 〔日産化学〕	ピラゾスルフロンエチル 0.3 エスプロカルブ 21	○	△	◎	○	□	○	◎	全域□, ノビエ2.5Lまで(初・中期一発処理剤) 〔3kg剤とほぼ同等だが, 一部効果の検討を要す〕
66	NH-728-1kg 粒 〔日本農薬〕	ベンスルフロンメチル 0.75 エスプロカルブ 15 ジチオピル 0.9	□	○						寒地・寒冷地北部□, ノビエ2.5Lまで(長期持続型一発処理剤) 〔3kg剤とほぼ同等だが, 一部効果の検討を要す〕
67	NH-728④-1kg 粒 〔日本農薬〕	ベンスルフロンメチル 0.51 エスプロカルブ 15 ジチオピル 0.9			○		○		□	寒冷地南部以西□, ノビエ2.5Lまで(長期持続型一発処理剤) 〔3kg剤とほぼ同等だが, 一部効果の検討を要す〕
68	NSK-850D-1kg 粒 〔徳山曹達, デュボンジャパン〕	ベンスルフロンメチル 0.75 NSK-850 2.7	△	△						寒地, 寒冷地△ 〔製剤検討(薬害)〕

No	薬 剤 名 ・ 剤 型 〔 委 託 者 名 〕	有効成分および 含有率 (%)	試験実施場所別総合評価							中 央 判 定 結 果 〔 今 後 の 課 題 点 等 〕
			北 海 道	東 北	北 陸	関 東	近 畿	中 国	九 州	
69	NSK-850D①-1kg粒 〔 徳山曹達, デュポンジ ャパン 〕	ベンスルフロンメチル 0.5 NSK-850 2.7			○	○	△	○	△	寒冷地南部以西□ 〔 製剤検討 〕
70	SL-498-1kg 粒 〔 石原産業 〕	ピラゾキシフェン 18 プレチラクロール 4.5 シメトリン 1.5		○	□	○	◎	○	□	寒地を除く全域○, 3kg剤と同等, ノビエ2Lまで(初期一発処理剤)
71	モリネートSM-1kg 粒 〔 八洲化学 〕	モリネート 24 シメトリン 4.5 MCPB 2.4		○		○	○			○, 3kg剤と同等, ノビエ3.5L まで
72	DPX-84CG①-1kg粒 〔 ゴルゴ普及会 〕	ベンスルフロンメチル 0.51 プレチラクロール 6				○				○, 3kg剤と同等, ノビエ1.5L まで
73	DPX-84T-1kg 粒 〔 DPX-84T-1kg 研 〕	ベンスルフロンメチル 0.75 メフェナセット 10				○				○, 3kg剤と同等, ノビエ2.5L まで
74	DPX-84TD①-1kg粒 〔 DPX-84TD①-1kg 研 〕	ベンスルフロンメチル 0.5 メフェナセット 10 ダイムロン 4.5				○				○, 3kg剤と同等, ノビエ2.5L まで
75	KUH-883①-1kg 粒 〔 クミ化, 日本バイエル, デュボン 〕	ベンスルフロンメチル 0.5 ベンチオカーブ 15 メフェナセット 3				○				○, 3kg剤と同等, ノビエ2Lま で
76	NC-311T-1kg 粒 〔 アクト普及会 〕	ピラゾスルフロンエチル 0.3 メフェナセット 10				○				○, 3kg剤と同等, ノビエ2.5L まで

注) 上記判定欄の記号については, ◎; 極めて有望, ○; 有望, □; 可能性あり, △; 再検討, ×; 見込なし, を表わす。

第2表 平成3年度水稻作関係除草剤適2試験成績判定結果一覧表

区 分	判 定	実	実 ・ 継	継	継 ?	中止
II-1. 移植前土壌混和 処理			CG-113乳, TCG-128乳.	HOK-913乳, KPP-314乳, KPP-314フロアブル, KPP- 2005フロアブル.		
II-2. 移植前後土壌処 理			CG-113-1kg粒, MO-338 -1kg粒, MTS-1フロアブル, MTS-1-1kg粒.	KPP-314粒, KPP-314フロ アブル, KPP-2005粒, KPP -2005フロアブル		

区 分 判 定	実	実 ・ 継	継	継 ?	中止
II-3. 移植後土壌処理		KH-218粒, NC-311-1kg粒, <u>NSK-852粒</u> , <u>SL-652粒</u> , <u>TSJ-756粒</u> , (追加) JC-940粒.	SW-914袋, TJM-162フロアブル, TSR-121フロアブル, Y-873-1kg粒, Y-873T-1kg粒.		
II-4. 茎葉兼土壌処理		モリネートSM-1kg粒.			
II-5. 適用時期拡大		HOK-7505-1kg粒, NC-311粒, <u>NC-311NS粒</u> , <u>NS-177粒</u> , <u>TH-913粒</u> , <u>モリネートSM-1kg粒</u> , (追加) <u>BAS-3510Na液</u> , (追加) <u>BAS-3510Na粒</u> , (追加) <u>DPX-84粒</u> , (追加) <u>DPX-84粒</u> .			
II-6-(1) クログワイ対象		DM-72粒, DPX-84SKH粒, KH-255粒, NC-311SC粒, <u>NC-326粒</u> , <u>NC-329粒</u> , <u>NH-728粒</u> , <u>SKH-8602粒</u> , <u>TH-913粒</u> . (但し, 連年施用については継続検討) DPX-84SC粒, DPX-84TD粒, JC-940粒, KUH-883粒, <u>KUH-883粒</u> , NC-311CG粒, <u>NC-311CG粒</u> , <u>NC-311NS粒</u> , <u>NC-311R粒</u> , <u>NC-311T粒</u> , <u>NJM-754粒</u> , <u>NS-177粒</u> , <u>TSJ-756粒</u> . (連年施用についても「実・継」) BAS-3510Na液, DPX-84粒, NS-112粒, (連年施用についても徹底防除に用いる剤として「実・継」)	(連年施用について継続検討) DM-72粒, KH-255粒, MY-911粒.		
II-6-(2) オモダカ対象		DM-72粒, <u>DPX-84SKH粒</u> , <u>KH-255粒</u> , <u>KH-255粒</u> , <u>NC-311SC粒</u> , <u>NC-326粒</u> , <u>NC-329粒</u> , <u>NH-728粒</u> , <u>SKH-8602粒</u> . (但し, 連年施用については継続検討) DPX-84粒, DPX-84TD粒, KUH-883粒, <u>KUH-883粒</u> , NC-311粒, <u>NC-311R粒</u> , <u>NS-177粒</u> . (連年施用についても「実・継」)	DM-72粒.		
II-6-(3) セリ対象		KUH-883粒.			
II-6-(5) シズイ対象		DM-72粒, DPX-84SKH粒, KH-255粒, <u>NC-311SC粒</u> , <u>NC-326粒</u> , <u>NC-329粒</u> , <u>NS-177粒</u> , <u>SKH-8602粒</u> .	JC-940粒.		
II-6-(6) エゾノサヤヌカグサ対象		DM-72粒, <u>DPX-84SKH粒</u> , <u>KH-255粒</u> , <u>NC-311SC粒</u> , <u>NC-326粒</u> , <u>NC-329粒</u> , <u>NS</u>			

区 分	判 定	実	実 ・ 継	継	継 ?	中止
II-6-(6)	エゾノサヤ ヌカグサ対 象(つづき)		-177粒, SKH-8602①粒, SW-907①粒.			
II-6-(7)	クサネム対 象		BAS-3510Na①液, DPX- -84粒, DPX-84T粒, KUH -883粒, NC-311CG粒, NC-311R粒, NC-311SC① 粒, NC-311T粒.	BAS-3510Na粒.		
II-6-(8)	コウキヤガ ラ対象		DPX-84TD①粒, KUH-883 ①粒, NC-311R粒, NC-311 SC①粒. NC-311CG粒. (連用施用についても「実・継」)	JC-940粒, NC-311CG①粒.		
III-1.	湛水直播		DPX-84M粒, NC-311HW粒.	KUH-883①粒, NC-311SC ①粒, TH-913HSK粒, TH- 913HW粒.		
III-2.	乾田直播		KUH-883①粒, KUH-914乳, トリフルラリン粒.	KUH-911液, KUH-911Aフ ロアブル.		
IV	畦畔雑草		DCMUフロアブル, Hoe-86610 液, Hoe-866-3H水和, HSW -9106液, Mon-8794液, MW-851液, グリホサート水溶.	KUH-913液,		
V	耕起前雑草		BGX-816水溶, Mon-8794 液, MW-851液.			
VII-1.	初期一発処理剤		DM-72①粒, DPX-84CG粒, DPX-84CG-1kg粒, DPX- 84CG①粒, DPX-84CG①-1kg 粒, DPX-84M①粒 (HOK- 917D), DPX-84SKH①粒, KH-249①粒, KH-255粒, KH-255①粒, KUH-883粒, KUH-883-1kg粒, KUH- 883①粒, KUH-883①-1kg 粒, NC-311CG粒, NC-311 CG-1kg粒, NC-311CG①粒, NC-311CG①-1kg粒, NC- 311HW粒, NCM-72粒, NJM-754粒, NSK-850粒, NSK-850D①粒, SKH-8602 ①粒, SL-970フロアブル, SW-970粒, SW-907①粒, TSM-612フロアブル, DPX- 84M粒 (HOK-917C), (追 加) DM-72粒.	NSK-850D-1kg粒, NSK- 850D①-1kg粒, NSK-855 フロアブル, NSK-855①フロ アブル, NSK-855①フロアブ ル, TDH-888①フロアブル, TDH-888フロアブル, TDH- 888①フロアブル, TH-913 ADS粒, TH-913ADS①粒, TH-913STフロアブル.		
VII-2.	初・中期一発処 理剤		DPX-84T-1kg粒, DPX-84 TD①-1kg粒, DPX-84SC粒, NC-311R粒, NC-311SC① 粒, NC-311SC①-1kg粒, NC -311T粒, NC-311T-1kg粒, NC-326粒, NC-326①粒, NC-329粒, (追加) DPX-84 SC①粒, (追加) DPX-84T粒, (追加) DPX-84TD①粒.	DJL-367粒, MY-910粒, MY-911①粒, MY-911粒, NC-329-1kg粒, NCH-903 -1kg粒, TH-913ADSC粒, TH-913SSC粒.		

区 分	判 定	実	実 ・ 継	継	継 ?	中止
VII-3-(1)	長期持続型 一発処理剤		DM-72粒, <u>DM-72㊦粒</u> , NC-326粒, NH-728粒, NH-728-1kg粒, <u>NH-728㊦粒</u> .	NH-728㊦-1kg粒, NH-9107粒, NH-9108粒, NH-9109粒.		
VII-3-(2)	一年生持続 型除草剤		<u>CGM-15粒</u> , <u>SUM-72粒</u> .	CG-187粒.		
VIII-1.	少量散布法		DPX-84CG粒, KUH-883粒, <u>KUH-883㊦粒</u> , NC-311CG粒, SW-907粒.			
VIII-2.	少量散布		CG-113粒, <u>KH-218粒</u> , MO-338粒, MTS-1粒.			

注: 1) 本年度新規に使用基準の作成されたものは、薬剤名はアンダーラインを記した。

2) 本年度は「継?」および「中止」と判定された薬剤はなかった。



**ひと足伸びた
馬力の一発。**

シンザン粒剤は、処理適期幅が広く、農作業上極めて便利で省力化の時代に応じて、今ここに新しいタイプの初・中期一発処理除草剤の誕生です。

〈シンザン普及会〉
塩野義製薬・八洲化学工業・アグロス・
日本バイエルアグロケム・住友化学工業
(事務局)
三井東圧化学株式会社
東京都千代田区麩が間3-2-5

水田初・中期一発処理除草剤
シンザン® 粒剤

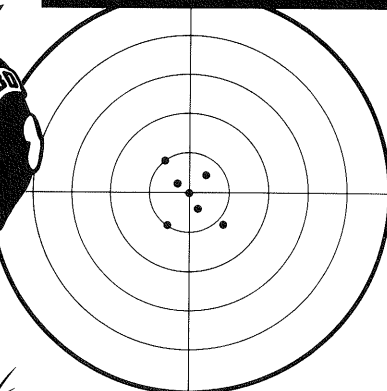
(注) 住友化学工業株式会社・日本バイエルアグロケム株式会社・三井東圧化学株式会社の共同登録商標

●農薬は正しく使いましょう！



水田雑草の除草に

武田 **ゴルボ** 粒剤 17/25



GORBO 17/25

ゴルボ普及会

武田薬品・日本チバガイギー・デュポン ジャパン リミテッド



水田除草、新時代

豊かさを描いて。

豊かさに、確かさをプラスして、
さらに美しさを求める。
ホクコーは、より質の高い実りの
世界を、今日も描き続けます。



ホクコーの主要除草剤

初期除草剤

マーシュット® 粒剤 2.5

モーダウン® 粒剤

中期除草剤

セスロン® 粒剤

バサグラン® 粒剤・液剤
(ナトリウム塩)

初期一発処理剤

プッシュ® 粒剤

クサカリ® 粒剤

初期除草剤

デルカット® 乳剤

ロンスター® 乳剤

畑作用除草剤

クレマート® 乳剤

果樹・畑作・その他除草剤

ポラリス® 液剤

ハービエース® 水溶剤

高温多湿で病害虫、雑草の多い日本では、
農薬のない農業は成り立ちません。



北興化学工業株式会社
東京都中央区日本橋本石町4-4-20

第3表 平成3年度水稲関係除草剤使用基準一覧表

II-1. 移植前土壌混和処理

	処理法	地域名	作期	元1	一年 広葉 マシイ	ホウイ	ワカ	ミカサ マ	ハラシ 効	知ウ イ	ササ 効	ヒムシ 口	落葉 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意		
II-1 1. CG-113 乳	土 壌 混 和 処 理	北海道		○	○	○			○						植代時 (～4)	50ml /a	○ 1.5	○	○	○	○	2	* 混和時 の水深 3-5cm ** 混和深 2-3cm	
		東北		○	○	○			○								○	○	○	○				
		北陸		○	○	○			○									○	○	○				
		関東 ・東山 ・東海	早	●	●	●		●										●	●	●				
			普	○	○	○		●											○	○	○			
		近畿 ・中国	早	○	○	○		○											○	○	○	1		
			普	○	○	○		○											○	○	○			
		四国	早	○	○	○		○											○	○	○			
			普	○	○	○		○												○	○	○		
		九州	早																					
			普	●	●	●														●	●			

II-1
2. HOK-913 乳 「継」II-1
3. KPP-314 乳 「継」II-1
4. KPP-314 フロアブル 「継」II-1
5. KPP-2005 フロアブル 「継」

	処理法	地域名	作期	元イ	一年広葉マシイ	ホウイ	ワカ	ミカサ	ハラシ	知ウイ	ササ	ヒムシ	落葉表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意	
Ⅱ-1 6.TCG-128 乳	土壌混和処理	北海道		○	○	○				○				移植時 (～4)	50ml/a	●	○	○	○	2	* 混和時の水深 3-5cm ** 混和深 2-3cm	
		東北		●	●	●		●								●	●	●	●			
		北陸		●	●	●		●								●	●	●	●			
		関東・東山・東海	早	●	●	●		●								●	●	●	●	1		
		普	●	●	●		●									●	●	●	●	2		
		近畿・中国	早	○	○	○		○										○	○	1		
		普	○	○	○		○										○	○	○			
		四国	早	○	○	○		○										○	○			
		普	○	○	○		○										○	○	○			
		九州	早																			
		普																				

II-2. 移植前後土壌処理

	処理法	地域名	作期	元イ	一年広葉マシイ	ホウイ	ワカ	ミカサリ	ハラサ効	知ウイ	ササ	ヒムシD	落葉表層剥離			処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意		
Ⅱ-2 I.CG-113 -1kg 粒	土壌処理	北海道		●1	●	●始			●始							植代後～-4 +0～+5 (元1L)	100 g/a		●	●	●	●	2		
		東北		●1	●	●始		●始	●始										●	●	●	●			
		北陸		●1	●	●始		●始	●始										●	●	●	●			
		関東・東山・東海	早	●1	●	●始											植代後～-4 +0～+3			●	●	●	●		
			普																						
		近畿・中国	早																						
			普																						
		四国	早																						
			普																						
		九州	早																						
			普																						

II-2. 移植前後土壌処理 つづき

II-2 2.KPP-314 粒	「継」
II-2 3.KPP-314 フロアブル	「継」
II-2 4.KPP-2005 粒	「継」
II-2 5.KPP-2005 フロアブル	「継」

	処理 法	地域名	作 期	元I	一年 広葉 マツ	オシ イ	ウツ ツ	ミツ ツ	ヘラ ツ	ウツ イ	オシ ツ	ヒメ ツ	落葉 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	填 土	填 土	填 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
II-2 6.MO-338 -1kg 粒	土 壌 処 理	北海道		●1	●										植代後~-4 +0~+6 (元I 1L)	100 g/a	●	●	●	●	2	
		東北		●1	●												●	●	●	●		
		北陸		●1	●												●	●	●	●		
		関東 ・東山 ・東海	早																			
			普																			
		近畿 ・中国	早																			
			普																			
		四国	早																			
			普																			
		九州	早	●1	●												●	●	●	●		
			普	●1	●												●	●	●	●		

	処理 法	地域名	作 期	元I	一年 広葉 マツ	オシ イ	ウツ ツ	ミツ ツ	ヘラ ツ	ウツ イ	オシ ツ	ヒメ ツ	落葉 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	填 土	填 土	填 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
II-2 7.MTS-1 フロアブル	土 壌 処 理	北海道		●1	●	●始			●始						植代後~-4 +0~+5 (元I 1L)	100 ml/a	●	●	●	●	2	
		東北		●1	●	●始											●	●	●	●		
		北陸		●1	●	●始											●	●	●	●		
		関東 ・東山 ・東海	早	●1	●	●始											●	●	●	●		
			普	●1	●	●始											●	●	●	●		
		近畿 ・中国	早	●1	●	●始											●	●	●	●		
			普	●1	●	●始											●	●	●	●		
		四国	早	●1	●	●始											●	●	●	●		
			普	●1	●	●始											●	●	●	●		
		九州	早																			
			普																			

	処理 法	地域名	作 期	元I	一年 広葉 マツ	オシ イ	ウツ ツ	ミツ ツ	ヘラ ツ	ウツ イ	オシ ツ	ヒメ ツ	落葉 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	填 土	填 土	填 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
II-2 8.MTS-1 -1kg 粒	土 壌 処 理	北海道		●1	●	●始			●始						植代後~-4 +0~+5 (元I 1L)	100 g/a	●	●	●	●	2	
		東北		●1	●	●始			●始								●	●	●	●		
		北陸		●1	●	●始			●始								●	●	●	●		
		関東 ・東山 ・東海	早																			
			普																			
		近畿 ・中国	早																			
			普																			
		四国	早																			
			普																			
		九州	早																			
			普																			

II-3. 移植後土壌処理

	処理 法	地域名	作 期	元 1	一年 広葉 マツ	オシ イ	ウカ イ	ミカ サ	ハナ タ	知カ イ	サカ タ	ヒメ シ	落 葉 表 層 剥 離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意		
Ⅱ-3 1. KH-218 粒	土 壌 処 理	北海道		○1.5	○	○始				○始					+3~元11. 5L	300g /a	○	○	○	2	(18)		
		東北		○1.5	○	○始											○	○	○				
		北陸		○1.5	○	○始											○	○	○				
		関東 ・東山 ・東海	早	○1.5	○	○始												○	○	○		1.5	
			普	○1.5	○	○始												○	○	○		2	
		近畿 ・中国	早	○1.5	○	○始												○	○	○		1	
			普	○1.5	○	●始		○始										●	○	○			
		四国	早	○1.5	○	○始													○	○		○	
			普	○1.5	○	●始		○始											●	○		○	
		九州	早	○1.5	○	●始													○	○		○	
			普	○1.5	○															○		○	○

	処理法	地域名	作期	元1	一年広葉マカイ	初刈	刈加	ミカサ刈	ハナタ効	知刈	サカ効	ヒメシ口	落葉表層剥離	刈	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意	
Ⅱ-3 2. NC-311 -1kg 粒	土壌処理	北海道			●	●2	●2			●2			●発土期	●再生前5始	+12~+20	100g/a	●	●	●	2	(21) (28)	
		東北																				
		北陸																				
		関東・東山・東海	早																			
			普																			
		近畿・中国	早																			
			普																			
		四国	早																			
			普																			
		九州	早																			
			普																			

	処理法	地域名	作期	元1	一年 広葉 マツ	オシイ	ウカ カ	ミカサ 判	ハナタ カ	知カ イ	サカ カ	ヒメシ ロ	落葉 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壤 土 1.5	壤 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
II-3 3. NSK-852 粒	土壌 処理	北海道		○1.5	○					○始					+3~元11.5L	300g /a	●	○	○	○	2

II-3. 移植後土壌処理 つづき

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マツバ	オシロイ	ウカ	ミカサ判	ハラタタ	知力イ	オシロイ	ヒムシ0	落類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植土	植土	減水深cm/d	使用上の注意
II-3 4. SL-652 (グラナイス)	土壌処理	北海道		○1.5	○	○始	○始		○始			○始	○発生期		+3~元11.5L	1.5 300g/a	○	○	○	○	2	(7) (8)
		東北		○1.5	○	○2			○始								○	○	○	○		
		北陸		○1.5	○	○2	○始	○始					○発生期				○	○	○	○		
		関東・東山・東海	早	○1.5	○	○2							○発生期				○	○	○	○		
		普	○2	○	○2	○2	○始				○始	○発生期		+3~元12L	○		○	○	○			
		近畿・中国	早	○2	○	○2	○始	○始				○始	○発生期				○	○	○	○	1	
		普	○2	○	○2	○始	○始				○始	○発生期			○		○	○	○	1.5		
		四国	早	○2	○	○2	○始	○始				○始	○発生期				○	○	○	○	1	
		普	○2	○	○2	○始	○始				○始	○発生期			○		○	○	○	1.5		
		九州	早	●1.5	●	●2	●始	●始				●始		+3~元11.5L					●	●	1	
		普	○1.5	○	○2	○2	○始				○始	○発生期			○		○	○	○	1.5		

II-3

5. SW-914 袋

「継」

II-3

6. TJM-162 フロアブル

「継」

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マツバ	オシロイ	ウカ	ミカサ	ハラタ	カワ	オシロイ	ヒムシ	落類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-3 7. TSJ-756 粒 II-6-(1) 27 併用	土壌処理	北海道		○1.5	○	○始			○始					+3~元11.5L	1.5 300g/a	○	○	○	○	2	(18) (42)
		東北		○1.5	○	○始		○始	○始	○始						○	○	○	○		
		北陸		○1.5	○	○始		○始								○	○	○	○		
		関東・東山・東海	早	○1.5	○	○始		○始								●	○	○	○		
			普	○1.5	○	○始		○始		○始						○	○	○	○		
		近畿・中国	早	○1.5	○	○始		○始								○	○	○	○	1	
			普	○1.5	○	○始		○始		○始						○	○	○	○		
		四国	早	○1.5	○	○始		○始								○	○	○	○		
			普	○1.5	○	○始		○始		○始						○	○	○	○		
		九州	早	○1.5	○	○始		●始								○	○	○	○		
			普	○1.5	○	○始		●始		○始						○	○	○	○		

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することによりさらに効果が向上する。(東北、関東・東山・東海、近畿・中国、四国、九州)

II-3

8. TSR-121 フロアブル

「継」

II-3

9. Y-873-1kg 粒

「継」

II-3

10. Y-873T-1kg 粒

「継」

II-3

追加 JC-940 粒

II-6-(1) 8. 参照

II-4. 茎葉兼土壌処理

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マリイ	オホイ	ウカ	ミカ	ヘカ	カウイ	カカ	ヒカ	落類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴壌土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-4 1. モリネートSM 粒	茎葉兼土壌処理	北海道		●2.5	●	●3	●4		●4				●前	+15~+12.5L	100 g/a	●	●	●	●	2	(1) (8)
		東北		●3.5	●	●3	●盛~6							+15~+13.5L (+15L以降)		●	●	●	●		
		北陸		●3.5	●	●3	●盛~6									●	●	●	●		
		関東・東山・東海	早	●3	●	●3		●3								●	●	●	●	1	
			普	●3	●	●3		●3									●	●	●		
		近畿・中国	早																		
			普																		
		四国	早																		
			普																		
		九州	早																		
			普																		

II-5. 適用時期拡大

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マリイ	オホイ	ウカ	ミカ	ヘカ	カウイ	カカ	ヒカ	落類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴壌土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-5 1. HOK-7505 粒	土壌処理	北海道		●1.5	●	●2			●2					+20~+11.5L	100 g/a	●	●	●	●	2	(1) (8) (9) (21)
		東北		●2	●	●2	●2		●2					+20~+25 (+12Lまで) (+15L以降)		●	●	●	●		
		北陸		●2	●	●2	●2		●2							●	●	●	●		
		関東・東山・東海	早	●2	●	●2										●	●	●	●		
			普	●2	●	●2											●	●			
		近畿・中国	早																		
			普																		
		四国	早																		
			普																		
		九州	早																		
			普																		

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マリイ	オホイ	ウカ	ミカ	ヘカ	カウイ	カカ	ヒカ	落類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴壌土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-5 2. NC-311 粒 II-6-(2) 併用	土壌処理	北海道			○	○2	○2		○2			○	○再	+12~+20	1.500 g/a	○	○	○	○	2	(21) (28) (38) (42)
		東北			○	○2	○2	○2	○2	○始	○2	○発生期	○再	カウイ +20~+25 +35~+40 (2回散布)		○	○	○	○		
		北陸			○	○2	○2	○2			○2	○	○再			○	○	○	○		
		関東・東山・東海	早		○	○2	○2	○2				○発生期	○再	カカ発生始~ 本葉展開期		○	○	○	○	1.5	
			普		○	○2	○2	○2	○2	○始	○2	○発生期	○再			○	○	○	○	2	
		近畿・中国	早		○	○2	○2	○2			○発生期	○再	○再				○	○	○	1	
			普		○	○2	○2	○3		○発生期	○期	○再	○始			○	○	○	○		
		四国	早		○	○2	○2	○2		○発生期	○期	○再	○増			○	○	○	○		
			普		○	○2	○2	○3		○発生期	○期	○再	○初			○	○	○	○		
		九州	早		○	○2	○2	○3						+15~+20		○	○	○	○	2	
			普		○	○2	○2	○3		○始				+10~+15		○	○	○	○	2	

クログワイ徹底防除には2回散布の連年施用をする(関東~四国)
クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する(東北)
オモタカに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する(北陸、関東・東山・東海)

II-5. 適用時期拡大 つづき

	処理法	地域名	作期	元I	一年 広葉 マツバ	ホウキ	ワカ	ミカ マツバ	ハナ マツバ	カウ イ	ササ マツバ	ヒメ マツバ	落葉 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意		
Ⅱ-5 3. NC-311NS 粒 Ⅱ-6-(1) 15 併用	土壌 処理	北海道													+15~+20	300 g/a					2	(21) (28) (42)		
		東北		●	●2	●2		●2	●始		●発生 期						●	●	●					
		北陸		●	●2			●2									●	●	●					
		関東 ・東山 ・東海	早																					
			普		●	●2		●2		●始(●2)										●	●		●	
		近畿 ・中国	早																					1
			普		●	●2	●2	●2		●始									●	●	●		●	
		四国	早																					
			普		●	●2	●2	●2		●始										●	●		●	●
		九州	早																					
			普		●	●2	●2	●3		●始											●		●	●

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する(東北・関東・東山・東海)

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マツバ	ホウキ	ワカ	ミカワ	ハナワカ	知カ	ササ	ヒメシロ	落葉表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意			
Ⅱ-5 4. NS-177 粒 Ⅱ-6-(1) 24 Ⅱ-6-(2) 16 Ⅱ-6-(5) 8 Ⅱ-6-(6) 7 併用	茎葉兼土壌処理	北海道		●2.5	●	●2	●2		●2			●発生期	IV型 ●始-3L 2L ●草丈5cm以上		+20~+25 (元I 2.5L)	300 g/a	●	●	●	●	2	(1) (8) (21) (38) (40) (42) (43)			
		東北		●2.5	●	●2	●2	●2	●2	●始								●	●	●			●		
		北陸		●2.5	●	●2	●2	●2	●2		●矢刈葉1L								●	●			●		
		関東・東山・東海	早														+20~+25 (元I 2L)			1			●	●	●
			普	●2	●	●2		●2		●始	●2								●	●			●	●	
		近畿・中国	早																						
			普							(●始)															
		四国	早																						
			普							(●始)															
		九州	早																						
			普																						

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する(東北・関東・東山・東海)

オモダカに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する(北陸)

	処理法	地域名	作期	元I	一年 広葉 マツバ	ホウキ	ワカ	ミカ	ハナ	カウ	ササ	ヒメ	落 葉 表 層 剥 離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意			
II-5 5. TH-913⊕ 粒 II-6-(1) 26 併用	土 壌 処 理	北海道			●	●2	●2		●2				●完 生 期	●前	●再 生 前 より 始	+10~+15 300 g/a		●	●	●	2	(21) (42)			
		東北			○	○2	○2	○2		●始									○	○	○				
		北陸			○	○2	○2	○2											○	○	○				
		関東 ・東山 ・東海	早																2 ○	2 ○	○		○		
		普		○	○2	○2	●2		●始											○	○		○		
		近畿 ・中国	早																						
		普		○	○2	○2	○2		●始											○	○		○		
		四国	早																						
		普		○	○2	○2	○2		●始												○		○	○	
		九州	早																						
		普		○	○2	○2	●2														○		○	○	

II-5. 適用時期拡大 つづき

[illegible]

Ⅱ-5 追加. BAS-3510Na◎ 液	Ⅱ-6-(1) 1. 参照
Ⅱ-5 追加. BAS-3510Na 粒	Ⅱ-6-(7) 1. 参照
Ⅱ-5 追加. DPX-84 粒	Ⅱ-6-(7) 3. 参照
Ⅱ-5 追加. DPX-84 ◎ 粒	Ⅱ-6-(1) 4. 参照

Ⅱ-6-(1) クログワイ 対象

[illegible]

※発生盛期～花茎抽出期 ※発生盛期～増殖初期 ※発生盛期～増殖中期
 加刈イ 徹底防除剤 2回散布の 連年施用。
 (東北・関東～九州の普通期、関東・東山・東海の早期、九州の早期)
 加刈イ 2回散布: +20~+40 → +30~+50
 加刈イ 多発田は 2 回散布: +30 → +45
 加刈イ +30~+40

[illegible]

VII-3-(1) 1 参照

「继」

知クイ 徹底防除は 2回散布の 連年施用する。(関東～四国)
杜効に 有効な 剤の組合せで 連年施用することにより効果向上する。(北陸・近畿・中国・四国・九州)

知の伝有効な 産品の組合 合せて 連年施用することにより効果が 向上する。(関東・近畿・中国・四国・九州)

II-6-(1) つづき

II-6-(1)
6.DPX-84SKH◎粒

VII-1 7 参照

	処理法	地域名	作期	バ1	一年広葉マシ	ホトイ	ウカ	ミナソ	ハナハ	カウイ	カホ	ヒムシ	落葉表層剥離	セリ	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植壌土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-6-(1) 7.DPX-84TD◎粒 VII-2に併用 II-6-2も併用	茎葉兼土壌処理	北海道																				
		東北																				
		北陸		○2.5	○	○2	○2	○2	○2		○2	○生	○前	○生	+ 5~ バ1 2.5L	300 g/a	○	○	○	○	2	(26) (34) (36) (38) (41) (42)
		関東・東山・東海	早	○2.5	○	○2	○2	○2					○前	○生			○	○	○	○		
			普	○2.5	○	○2	○2	○2	○始	○始	○2	○	○前	○生			○	○	○	○		
		近畿・中国	早	○3	○	○2	○2	○2			○2	○生	○前	○生	+ 5~ バ1 3L		○	○	○	○	1	
			普	○3	○	○2	○2	○2		○始	●2	○期	○前	○始			○	○	○	○	2	
		四国	早	○3	○	○2	○2	○2			○2	○生	○前	○生			○	○	○	○	1	
			普	○3	○	○2	○2	○2		○始	●2	○期	○前	○始			○	○	○	○	2	
		九州	早	○3	○	○2	○2	○2		○始	●始	○生	○前	○生			○	○	○	○	1.5	
			普	○3	○	○2	○2	○2		○始	○始	○期	○前	○始			○	○	○	○		

カウイに有効。刺殺効果。各地で連年施用により、さらに効果を向上。 (関東~九州)
ホトイに有効。刺殺効果。各地で連年施用により、さらに効果を向上。 (北陸、関東~九州)

	処理法	地域名	作期	バ1	一年広葉マシ	ホトイ	ウカ	ミナソ	ハナハ	カウイ	カホ	ヒムシ	落葉表層剥離	セリ	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植壌土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-6-(1) 8.JC-940粒 II-3に併用	土壌処理	北海道																				
		東北		○一		○始		○始													2	
		北陸		○生		○始		○始														
		関東・東山・東海	早	○リ																		
			普	○リ		○始		○始		●始												
		近畿・中国	早	○リ																	1	
			普	○リ		○始		○始		●始												(42)
		四国	早	○マ																		
			普	○マ		○始		○始		●始												
		九州	早																			
			普		○	○始		○始														

カウイに有効。刺殺効果。各地で連年施用により、さらに効果を向上。 (関東・東山・東海)

II-6-(1)
9.KH-255粒

VII-1 9 参照

II-6-(1)
10. KH-255◎粒

「継」

新刊 山野草・樹木生態図鑑

シダ類・裸子植物・被子植物(離弁花)編

監修/沼田 真
編者/浅野貞夫・桑原義晴

B5判・664頁・オールカラー・定価25,000円(本体24,272円)

北海道から沖縄まで日本列島に生育するシダ植物、山野草、雑草、帰化植物、樹木について、カラー写真 2,655点、図版 830点をつかい、生活型、個々の種の特徴や類似植物との区別点などを追究

姉妹編 沼田真・吉沢長人/編集

日本原色雑草図鑑

B5判/414頁(カラー1,020点)

定価10,094円(本体9,800円)

全国農村教育協会

東京都台東区台東1-26-6(植調会館)

〒110 TEL.03-3833-1821(代)

II-6-(1) つづき

II-6-(1) 11. KUH-883粒	VII-1	11	参照
II-6-(1) 12. KUH-883◎粒	VII-1	13	参照
II-6-(1) 13. NC-311CG粒	VII-1	15	参照
II-6-(1) 14. NC-311CGO粒	VII-1	17	参照
II-6-(1) 15. NC-311NS粒	II-5	3	参照
II-6-(1) 16. NC-311R粒	VII-2	8	参照
II-6-(1) 17. NC-311SC◎粒	VII-2	9	参照
II-6-(1) 18. NC-311T 粒	VII-2	11	参照
II-6-(1) 19. NC-326 粒	VII-3-(1)	3	参照
II-6-(1) 20. NC-329 粒	VII-2	15	参照
II-6-(1) 21. NH-728 粒	VII-3-(1)	4	参照
II-6-(1) 22. NJM-754 粒	VII-1	21	参照

	処理法	地域名	作期	元江	一年広葉マバ	ササ	ササ	ミカサ	ハササ	加サ	ササ	ミカサ	落葉表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	塩壌土	植	減水深 cm/d	使用上の注意
II-6-(1) 23. NS-112 粒	土壌処理	北海道														300 g/a						
		東北								○始									○	○	1	(42)
		北陸																				
		関東・東山・東海	早																			
			普							○始									○	○	○	
		近畿・中国	早																			
			普							●始									●	●	●	
		四国	早							●始									●	●	●	
			普																●	●	●	
		九州	早							○始									○	○	○	
			普																			

加サの有効な剥離組合せで連年施用することにより効果向上が、(関東～四国)連年施用することにより剥離が可能(東北)

II-6-(1) 24. NS-177 粒	II-5	4	参照
II-6-(1) 25. SKH-8602◎粒	VII-1	29	参照
II-6-(1) 26. TH-913◎粒	II-5	5	参照
II-6-(1) 27. TSJ-756 粒	II-3	7	参照
II-6-(1) 28. MY-911 粒	「継」		

Ⅱ-6-(2) オモダカ 対象

Ⅱ-6-(2) 1. DM-72	粒	Ⅶ-1、Ⅶ-3-(1) に併用、Ⅱ-6-(1) 2、Ⅶ-3-(1) 1参照
Ⅱ-6-(2) 2. DM-72○	粒	「継」
Ⅱ-6-(2) 3. DPX-84○	粒	Ⅱ-5に併用、Ⅱ-6-(1) 4参照
Ⅱ-6-(2) 4. DPX-84SKH○	粒	Ⅶ-1 7 参照
Ⅱ-6-(2) 5. DPX-84TD○	粒	Ⅶ-2に併用、Ⅱ-6-(1) 7参照
Ⅱ-6-(2) 6. KH-255	粒	Ⅶ-1 9 参照
Ⅱ-6-(2) 7. KH-255 ○	粒	Ⅶ-1 10参照
Ⅱ-6-(2) 8. KUH-883	粒	Ⅶ-1 11参照
Ⅱ-6-(2) 9. KUH-883○	粒	Ⅶ-1 13参照
Ⅱ-6-(2) 10. NC-311	粒	Ⅱ-5 2 参照
Ⅱ-6-(2) 11. NC-311R	粒	Ⅶ-2 8 参照
Ⅱ-6-(2) 12. NC-311SC○	粒	Ⅶ-2 9 参照
Ⅱ-6-(2) 13. NC-326	粒	Ⅶ-2 13およびⅦ-3-(1) 3参照
Ⅱ-6-(2) 14. NC-329	粒	Ⅶ-2 15 参照
Ⅱ-6-(2) 15. NH-728	粒	Ⅶ-3-(1) 4参照
Ⅱ-6-(2) 16. NS-177	粒	Ⅱ-5 4 参照
Ⅱ-6-(2) 17. SKH-8602○粒		Ⅶ-1 29 参照

Ⅱ-6-(3) セリ 対象

Ⅱ-6-(3) 1. KUH-883○	粒	Ⅶ-1 13参照
------------------------	---	----------

Ⅱ-6-(5) シズイ 対象

Ⅱ-6-(5) 1. DM-72	粒	Ⅶ-1、Ⅶ-3-(1) に併用、Ⅱ-6-(1) 2、Ⅶ-3-(1) 1参照
Ⅱ-6-(5) 2. DPX-84SKH○	粒	Ⅶ-1 7 参照
Ⅱ-6-(5) 3. JC-940	粒	「継」
Ⅱ-6-(5) 4. KH-255	粒	Ⅶ-1 9 参照
Ⅱ-6-(5) 5. NC-311SC○	粒	Ⅶ-2 9 参照
Ⅱ-6-(5) 6. NC-326	粒	Ⅶ-3-(1) 3参照
Ⅱ-6-(5) 7. NC-329	粒	Ⅶ-2 15 参照
Ⅱ-6-(5) 8. NS-177	粒	Ⅱ-5 4 参照
Ⅱ-6-(5) 9. SKH-8602○粒		Ⅶ-1 29 参照

II-6-(6) エゾノサヤヌカグサ 対象

II-6-(6) 1.DM-72 粒	VII-1、VII-3-(1) に併用、II-6-(1) 2、VII-3-(1) 1参照
II-6-(6) 2.DPX-84SKH [®] 粒	VII-1 7 参照
II-6-(6) 3.KH-255 粒	VII-1 9 参照
II-6-(6) 4.NC-311SC [®] 粒	VII-2 9 参照
II-6-(6) 5.NC-326 粒	VII-3-(1) 3参照
II-6-(6) 6.NC-329 粒	VII-2 15 参照
II-6-(6) 7.NS-177 粒	II-5 4 参照
II-6-(6) 8.SKH-8602 [®] 粒	VII-1 29 参照
II-6-(6) 9.SW-907 [®] 粒	VII-1 32 参照

II-6-(7) クサナム 対象

II-6-(7) 1.BAS-3510Na 粒	「継」
II-6-(7) 2.BAS-3510Na [®] 液	II-5に併用、II-6-(1) 1 参照

	処理 法	地域名	作 期	元1	一年 広葉 マシイ	オシイ	ウカ	ミカ ツ	ハカ ツ	カウ イ	カウ ロ	落類 表層 剥離	セリ	シイ	処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意				
Ⅱ-6-(7) 3.DPX-84 粒 Ⅱ-5に併用	土 壌 処 理	北海道			○	○2	○2		○2			○始	○前 ～始	○再 生	+15～+20	300 g/a	1.5	○	○	○	2	(21) (28) (38) (42) (44)			
		東北			○● **私	○2	○2	○2		○	○始			○始	○0-3cm 加ツバ 2回 散布 (+20～+25 → +45～+50)				○	○	○				
		北陸			○	○2	○2	○2			○始									○	○	○			
		関東・ 東山・ 東海	早		○	○2	○2	○2			○前	○前								○	○	○			
			普 *		○	○2	○2	○2			○前	○前									○	○	○		
		近畿・ 中国	早														シバ 2回散布 (+20～+40)								
			普																						
		四国	早														**ツバ 始～本葉展 開期: (東北)								
			普								(○始)										○	○	○	1)	
		九州	早																						
	普																								

*関東・東山・東海の普通期は低温時斜地帯に限る。 クログワイ徹底防除には2回散布の連年施用する(東北)

	処理 法	地域名	作 期	元1	一年 広葉 マシイ	オシイ	ウカ	ミカ ツ	ハカ ツ	カウ イ	カウ ロ	ヒム ロ	落類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意			
Ⅱ-6-(7) 4.DPX-84T 粒 Ⅶ-2に併用	茎葉兼 土壌処理	北海道		○2.5	○	○2	○2			○2			○始	○始	17リットル ○1-4L (20cm 以下) ○1リットル 以下 ○1リットル 以下	+ 5～+20 (元1 2.5Lまで)	300 g/a	1.5	○	○	○	2	(26) (28) (36) (38) (42) (44)	
		東北		○2.5	○● **私	○2	○2	○2	○2	○2	○始	○始	○	○始	○始	○始	○始		○	○	○			
		北陸		○2.5	○	○2	○2	○2	○2		○始	○始	○	○始	○始	○始	○始			○	○	○		
		関東 ・東山 ・東海	早																					
		普																						
		近畿 ・中国	早																					
		普																						
		四国	早																					
		普																						
		九州	早																					
普																								

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することによりさらに効果が向上する(東北)

II-6-(7) クサネム 対象 つづき

II-6-(7) 3.KUH-883 粒	VII-1 11 参照
II-6-(7) 6.NC-311CG 粒	VII-1 15 参照
II-6-(7) 7.NC-311R 粒	VII-2 8 参照
II-6-(7) 8.NC-311SCO粒	VII-2 9 参照
II-6-(7) 9.NC-311T 粒	VII-2 11 参照

II-6-(8) コウキヤガラ 対象

II-6-(8) 1.DPX-84TDO粒	VII-2 併用、II-6-(1) 7 参照
II-6-(8) 2.J8-940 粒	「継」
II-6-(8) 3.KUH-883O 粒	VII-1 13 参照
II-6-(8) 4.NC-311CG 粒	VII-1 15 参照
II-6-(8) 5.NC-311CGO粒	「継」
II-6-(8) 6.NC-311R 粒	VII-2 8 参照
II-6-(8) 7.NC-311SCO粒	VII-2 9 参照

III-1 湛水直播

	処理法	地域名	作期	元1	一年広葉マツ	杉	ツバキ	ミナソウ	ハナミズキ	カサネ	ササ	ヒメツバキ	落葉層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	適壌土	減水深 cm/d	使用上の注意
III-1 1.DPX-84M 粒	土壌処理	北海道		O2	O	O2	O2	O2					O発生期	470.5L ~ 712L	300 g/a		O	O		2
		東北		O2	O	O2	O2	O2					O発生期				O	O		
		北陸																		
		関東・東山・東海	早																	
			普																	
		近畿・中国	早																	
			普																	
		四国	早																	
			普																	
		九州	早																	
			普																	

III-1

2.KUH-883O 粒 「継」

	処理法	地域名	作期	元1	一年広葉マツ	杉	ツバキ	ミナソウ	ハナミズキ	カサネ	ササ	ヒメツバキ	落葉層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	適壌土	減水深 cm/d	使用上の注意
III-1 3.NC-311HW 粒	土壌処理	北海道		●2	●	●2	●2		●2				●発生期	470.5L ~ 712L	300 g/a		●	●	●	2
		東北		●2	●	●2	●2						●発生期				●	●	●	
		北陸		●2	●	●2	●2										●	●	●	
		関東・東山・東海	早																	1.5
			普	●2	●	●2	●2	●2				●発生期	●刈り再生前~始				●	●	●	
		近畿・中国	早									●発生期	●刈り再生前~始							
			普	●2	●	●始	●2	●2									●	●	●	
		四国	早																	
			普	●2	●	●始	●2	●2									●	●	●	
		九州	早																	1
			普	●2	●	●2	●2										●	●	●	

Ⅲ-1 湛水直播 つづき

Ⅲ-1 4.NC-811SCD 粒	「継」
Ⅲ-1 5.TH-913HSK 粒	「継」
Ⅲ-1 6.TH-913HW 粒	「継」

Ⅲ-2 乾田直播

処理法	地域名	作期	代1	一年広葉マ刈	ホムイ	刈刈	ミタ刈	ヘラ刈	刈刈イ	ホムイ	落類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴壌土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅲ-2 1.KUH-883C 粒	北海道																		
	東北																		
	北陸																		
	関東・東山・東海	早										入水後7日 ～代1 2L	300 g/a					2	
		普	○2	○	○2	○2	○2				○発生期				○	○	○		
	近畿・中国	早										入水後3日 ～代1 2L							
		普	○2	○	○始	○始	○始								○	○	○		
	四国	早																	
		普	○2	○	○始	○始	○始								○	○	○		
	九州	早																	
		普																	

Ⅲ-2 2.KOH-911 液	「継」
Ⅲ-2 3.KOH-911A フロアブル	「継」

	処理法	地域名	作期	代1	一年広葉マ刈	ホムイ	刈刈	ミタ刈	ヘラ刈	刈刈イ	ホムイ	落類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴壌土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅲ-2 4.KUH-914 乳	茎葉兼土壌処理	北海道																		DOPA剤の使用上の注意事項を守る	
		東北																			
		北陸																			
		関東・東山・東海	早											+15～代13L (入水前)	80～100 ml/a						
			普	●3	●												●	●	●		
		近畿・中国	早																		
			普	●3	●													●	●		●
		四国	早																		
			普	●3	●												●	●	●		
		九州	早																		
普																					

		処理法	地域名	作期	代1	一年 広葉 マ刈	ホムイ	刈刈	ミタ 刈	ヘラ 刈	刈刈 イ	ホム イ	落 類 表 層 剥 離			処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	埴 壌 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意			
Ⅲ-2 5.トリフルラリン 粒	土 壌 処 理	北海道														播種後～ ノビエ発生前	400 ～500 g/a									
		東北																								
		北陸																								
		関東・東山・東海	早																							
			普																							
		近畿・中国	早																							
			普	●																	●	●	●			
		四国	早																							
			普	●																		●	●	●		
		九州	早																							
普																										

IV 畦畔雑草

	処理法	地 域 名	対象雑草名	処理時期	使用量：製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意
IV 1. DCMU フロアブル	茎葉・土壌処理	北海道	○ 全草種	発生前～生育初期 (草丈20cm以下)	20～25g/a	全土壌	(23) (24)
		東 北					
		北 陸					
		関東・東山・東海					
		近畿・中国					
		四 国					
		九 州					

	処理法	地 域 名	対象雑草名	処理時期	使用量：製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意
IV 2. Hoe-86610 液	茎葉処理	北海道	● 全草種	雑草生育期 (草丈30cm以下)	100～200ml/a	全土壌	(23) (24)
		東 北					
		北 陸					
		関東・東山・東海					
		近畿・中国					
		四 国					
		九 州					

	処理法	地 域 名	対象雑草名	処理時期	使用量：製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意
IV 3. Hoe-866-3H 水和	茎葉処理	北海道	● 全草種	雑草生育期 (草丈30cm以下)	50～75g/a	全土壌	(23) (24)
		東 北					
		北 陸					
		関東・東山・東海					
		近畿・中国					
		四 国					
		九 州					

	処理法	地 域 名	対象雑草名	処理時期	使用量：製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意
IV 4. HSW-9106 液	茎葉処理	北海道	● 全草種	雑草生育期 (草丈10cm以下)	500～700ml/a	全土壌	(23) (24)
		東 北					
		北 陸					
		関東・東山・東海					
		近畿・中国					
		四 国					
		九 州					

IV
5. KUH-913 液 「継」

	加 理 法	地 域 名		対象雑草名	処理時期	使用量・製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意
IV 6.Mon-8794 液	茎葉処理	北海道	○	全草種	雑草生育期 (草丈20~30cm)	30~50ml/a (*)	全土壌	(23) (24)
		東 北	○					
		北 陸	○					
		関東・東山・東海	○					
		近畿・中国	○					
		四 国	○					
		九 州	○					

*少量散布：希釈水量2、5l/a、5l/aでも有効、専用の散布機を用いる（全域）

Ⅳ 畦畔雑草 つづき

	処理法	地 域 名	対象雑草名	処理時期	使用量・製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意
Ⅳ 7. MW-851 液	茎葉処理	北海道	全草種	雑草生育期 (草丈30cm以下)	50~100ml/a	全土壌	(23) (24)
		東 北					
		北 陸					
		関東・東山・東海					
		近畿・中国					
		四 国					
		九 州					

	処理法	地 域 名	対象雑草名	処理時期	使用量・製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意
Ⅳ 8. グリホサート 水溶	茎葉処理	北海道	全草種	雑草生育期	30～50g/a （＊）	全土壌	(23) (24)
		東 北					
		北 陸					
		関東・東山・東海					
		近畿・中国					
		四 国					
		九 州					

*少量散布：希釈水量2. 5ℓ/aでも有効、専用の散布機を用いる（全域）

Ⅴ 耕起前雑草

	処理法	地 域 名	対象雑草名	処理時期	使用量・製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意
Ⅴ 1. BGX-816 水溶	茎葉処理	北海道	一年生雑草	雑草生育期 耕起前20日以前	40~60g/a	全土壌	(25)
		東 北					
		北 陸					
		関東・東山・東海					
		近畿・中国					
		四 国					
		九 州					

	処理法	地 域 名	対象雑草名	処理時期	使用量・製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意
Ⅴ 2. Mon-8794 液	茎葉処理	北海道	一年生雑草 イネ科多年生雑草	雑草生育期 耕起前20日以前	30~50ml/a *	全土壌	(25)
		東 北					
		北 陸					
		関東・東山・東海					
		近畿・中国					
		四 国					
		九 州					

*少量散布：希釈水量2. 5ℓ/a, 5ℓ/aでも有効、専用の散布機を使用する（全域）

	処理法	地 域 名	対象雑草名	処理時期	使用量・製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意
Ⅴ 3. MW-851 液	茎葉処理	北海道	一年生雑草	雑草生育期 耕起前20日以前	50~75ml/a	全土壌	(25)
		東 北					
		北 陸					
		関東・東山・東海					
		近畿・中国					
		四 国					
		九 州					

Ⅶ-1 初期一発処理別

	処理法	地域名	作期	元1	一年広葉マツ	ナナ	ミナツ	ハナ	カウ	ヒム	落類表層剥離	セリ	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴壌土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-1 1. DM-72Q 粒	土壌処理	北海道																		
		東北		●1.5	●	●2	●2	●2			●発生	●前	●	+3~元11.5L	300 g/a			●●	2	(28) (3) (26)
		北陸		○1.5	○	○2	○2	○2				○再生	○	+5~元11.5L			○	○		
		関東・東山・東海	早	○1.5	○	○2	○2	○始				○再生	○			1.5	○	○	○	
		普		○1.5	○	○2	○2	○始				○前	○				○	○	○	
		近畿・中国	早	○1.5	○	○2	○2	○2				○発生	○再生				○	○	○	1
		普		○1.5	○	○2	○2	○2				●期	○再生				○	○	○	
		四国	早	○1.5	○	○2	○2	○2				○発生	○始				○	○	○	
		普		○1.5	○	○2	○2	○2				●期					○	○	○	
		九州	早	●1.5	●	●2	●2	●2	●2								●●●●	2		
		普																		

	処理法	地域名	作期	元1	一年広葉マツ	ナナ	ミナツ	ハナ	カウ	ヒム	落類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴壌土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意		
Ⅶ-1 2. DPX-84CG 粒	土壌処理	北海道		○2	○	○2	○2	○2			○発生	○前	○*	+5~元1 2L	300 g/a	○1.5	○	○	○	2	(26) (28) (38) (40) (42)	
		東北		○2	○	○2	○2	○2	○始	○始	○期	○前	○生	○**		+5~元1 2L		○	○	○		
		北陸											○再生									
		関東・東山・東海	早													* イシノガキ幼木 1~4L 草丈20cm以下						
		普																				
		近畿・中国	早													** シイ 0~3cm						
		普																				
		四国	早																			
		普																				
		九州	早																			
		普																				

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する（東北）

	処理法	地域名	作期	元1	一年 広葉 マツ	杉	クロ 松	ミナ 松	ハナ 松	カウ 松	ヒメ 松	落類 表層 剥離	砂	処理時期	使用 量・ 製品	砂 壤土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意	
Ⅶ-1 3. DPX-84CG -1kg 粒	土壌処理	北海道		●1.5	●	●2	●2		●2			●発生 期	●前	●再生 期	100 g/a	1.5	●	●	●	2	(26) (28) (38) (40) (42)	
		東北		●1.5	●	●2	●2	●2	●2	●始	●始		●前	●再生 期			●	●	●			
		北陸												●再生 期								
		関東・東山・東海	早																			
			普																			
		近畿・中国	早																			
			普																			
		四国	早																			
			普																			
		九州	早																			
			普																			

VII-1 初期一発処理剤 つづき

	処理法	地域名	作期	元1	一年 広葉 マツバ	オキイ	ウカ	ミカ マツバ	ハラ マツバ	カウ イ	カウ イ	ヒム ロ	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意	
Ⅶ-1 4.DPX -84CGO 粒	土 壌 処 理	北海道		○1.5	○	○2			○2			○2	○前		+3～元11.5L	300 g/a	○	○	○	○	2	(26) (28) (34) (38) (42)
		東北		○1.5	○	○始	○始	○2	○始		○始	○発 生		セリ ○前～始			○	○	○	○		
		北陸		○2	○	○2	○2	○2	○2		○始	○期	○前		+3～元12L *ただし、 砂壌土では +7以降とす る(北陸)		○*	○	○	○		
		関東・ 東山・ 東海	早	○2	○	○2	○2	○2					○前					○	○	○		
			普	○2	○	○2	○2	○2		○始	○始	○		○前～始				○	○	○		
		近畿・ 中国	早	○2	○	○始	○2	○2				○発 生	○前	○前～始				○	○	○		
			普	○2	○	○2	○2	○2		○始		○	○前	○前～始				○	○	○		
		四国	早	○2	○	○始	○2	○2				○発 生	○前	○前～始				○	○	○		
			普	○2	○	○2	○2	○2		○始		○期	○前	○前～始				○	○	○		
		九州	早	○1.5	○	○2	○2	○2		○始					+5～元11.5L				○	○		
			普	○1.5	○	○2	○2	○2		○始									○	○		

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する（関東～四国、九州の早期・普通期）

	処理法	地域名	作期	元1	一年広葉マツバ	オキイ	ウカ	ミカマツバ	ハラマツバ	カウイ	カウ	ヒム	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	塩土	減水深 cm/d	使用上の注意		
VII-1 5.DPX -84CGO -1kg 粒	土壌処理	北海道													*北陸の砂壌土は+7以降 +3～元11.5L	100 g/a						(26) (28) (34) (38)		
		東北																						
		北陸		●1.5	●	●2	●2	●2	●2		●始	●発生期	●前					●*	●	●	●		1	
		関東・東山・東海	早	●1.5	●	●2		●2											●	●	●		2	
			普	●1.5	●	●2		●2												●	●			
		近畿・中国	早																					1
			普	●1.5	●	●始		●2					●前							●	●		●	
		四国	早																					
			普	●1.5	●	●始		●2					●前							●	●		●	
		九州	早																					
			普																					

	処理法	地域名	作期	元1	一年広葉マツバ	オキイ	ウカ	ミカ	ハラ	カウ	カウ	ヒム	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意	
VII-1 6.DPX-84MO 粒	土壌処理	北海道														300 g/a					2 (28) (38)	
		東北																				
		北陸		○2	○	○2	○2	○2			○始	○		カサ ○発生始～盛	+5～元12L			○	○	○		
		関東・東山・東海	早	○2	○	○2	○2	○2				○発生		カサ ○発生始～盛	+0～元12L			○	○	○		
			普	○2	○	○2	○2	○2			○始	○		カサ ○発生始～盛	+0～元12L			○	○	○		
		近畿・中国	早	○2	○	○2	○2	○2				○発生	○前	○前	+3～元12L				○	○		
			普	○2	○	○2	○2	○2				○期	○前	○再	+0～元12L			1.5	○	○		○
		四国	早	○2	○	○2	○2	○2				○発生	○生	○前	+3～元12L				○	○		○
			普	○2	○	○2	○2	○2				○期	○生	○前	+0～元12L			1.5	○	○		○
		九州	早	○2	○	○2	○2	○2					○発生	○始	+5～元12L				○	○		○
			普	○2	○	○2	○2	○2				○期	○		+3～元12L				○	○		○

VII-1 初期一発処理剤 つづき

処理法	地域名	作期	ベI	一年 広葉 マ刈	お刈	刈初	ミ刈 刈	ヘ刈 効	刈効 イ	刈効 ロ	落類 表層 剥離	17刈 ス ンズイ	処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
VII-1 7. DPX -84SKH [®] 粒 II-6-(1) 6 II-6-(2) 4 II-6-(5) 2 II-6-(6) 2 併用	土壌処理	北海道	○2	○	○2	○2		○2			○発生	○前	+5~21.2L	300 g/a		○	○	○	2	(28) (38) (42)
		東北	○2	○	○2	○2	○2	●始	●始	○期	●前	○前								
		北陸										○再 ス 始								
		関東 ・東山 ・東海	早																	
			普																	
		近畿 ・中国	早																	
			普																	
		四国	早																	
			普																	
		九州	早																	
			普																	

処理法	地域名	作期	ベI	一年 広葉 マ刈	お刈	刈初	ミ刈 刈	ヘ刈 効	刈効 イ	刈効 ロ	落類 表層 剥離	17刈 ス ンズイ	処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
VII-1 8. KH-249 [®] 粒	土壌処理	北海道	●1.5	●	●2	●2		●2			●発生	●前 ス 盛	+3~21.5L	300 g/a	●	●	●	●	2	(34)
		東北	●1.5	●	●2	●2		●2			●発生	●前 ス 盛								
		北陸	○1.5	○	○2	○2					●前 ス 盛									
		関東 ・東山 ・東海	早	●1.5	●	●始	●始					○前 ス 盛								
			普	○1.5	○	○始	○始					○前 ス 盛								
		近畿 ・中国	早	○1.5	○	○2	○2	○始				○前 ス 盛								
			普	○1.5	○	○2	○2	○始				○前 ス 始								
		四国	早	○1.5	○	○2	○2	○始				○前 ス 盛								
			普	○1.5	○	○2	○2	○始				○前 ス 盛								
		九州	早									○前 ス 盛								
			普	○1.5	○	○2	○始	○始				○前 ス 盛								

処理法	地域名	作期	ベI	一年 広葉 マ刈	お刈	刈初	ミ刈 刈	ヘ刈 効	刈効 イ	刈効 ロ	落類 表層 剥離	17刈 ス ンズイ	処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
VII-1 9. KH-255 粒 II-6-(1) 9 II-6-(2) 6 II-6-(5) 4 II-6-(6) 3 併用	土壌処理	北海道	●1.5	●	●2	●2		●2			●発生	●前 ス 始	+3~21.5L	300 g/a	●	●	●	●	2	(38) (42)
		東北	●1.5	●	●2	●2	●2	●2	●始	●始	●期	●前								
		北陸																		
		関東 ・東山 ・東海	早																	
			普																	
		近畿 ・中国	早																	
			普																	
		四国	早																	
			普																	
		九州	早																	
			普																	

VII-1 初期一発処理剤 つづき

	処理法	地域名	作期	ベI	一年広葉マバI	ナバI	ウカI	ミカI	ハカI	カカI	ヒカI	落葉表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-1 10. KH 粒 II-6-(2) 7 併用	土壌処理	北海道												+3~ベI 1.5L	300 g/a						(28) (34) (38)
		東北																			
		北陸	早	●1.5	●	●2	●2	●2	●2	●始		●前				●	●	●	●	2	
		関東・東山・東海	早	●1.5	●	●始	●始	●始								●	●	●	●		
			普	●1.5	●	●始	●始	●始					●前			●	●	●	●		
		近畿・中国	早	●1.5	●	●始	●始	●2									●	●	●	1	
			普	●1.5	●	●始	●始	●2									●	●	●		
		四国	早	●1.5	●	●始	●始	●2									●	●	●		
			普	●1.5	●	●始	●始	●2									●	●	●		
		九州	早	●1.5	●	●2	●2	●2								●	●	●	●		
			普	●1.5	●	●2	●2	●2									●	●	●		

	処理法	地域名	作期	ベI	一年広葉マバI	ナバI	ウカI	ミカI	ハカI	カカI	ヒカI	落葉表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-1 11. KUH-883 粒 II-6-(1) 11 II-6-(2) 8 II-6-(7) 5 併用	土壌処理	北海道		○2	○	○2	○2		○2			○発生	○始	+3~ベI 2 L *カバI 始~本業展開期	300 g/a	1.5	○	○	○	2	(28) (38) (42) (44)
		東北		○2	○●カバI *カバI	○2	○2	○2	○2	○始	○始	○期	○前			○	○	○	○		
		北陸																			
		関東・東山・東海	早																		
			普																		
		近畿・中国	早																		
			普																		
		四国	早																		
			普																		
		九州	早																		
			普																		

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する（東北）
オモダカに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する（東北）

	処理法	地域名	作期	ベI	一年広葉マバI	ナバI	ウカI	ミカI	ハカI	カカI	ヒカI	落葉表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-1 12. KUH-883 粒 -1kg	土壌処理	北海道		●2	●	●2	●2		●2			●前	●前	+3~ベI 2 L *カバI 始~3cm	300 g/a	1.5	●	●	●	2	(28) (38) (42)
		東北		●2	●	●2	●2	●2	●2	●前	●始	●期	●前			●	●	●	●		
		北陸																			
		関東・東山・東海	早																		
			普																		
		近畿・中国	早																		
			普																		
		四国	早																		
			普																		
		九州	早																		
			普																		

VII-1 初期一発処理剤 つづき

	処理法	地域名	作期	元1	一年 広葉 マツ	ナリ	カガ	ミガツ	ハラツ	カガ イ	ナリ ツ	ヒル ツ	落類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土 1.5	壤 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意		
VII-1 13. KUH -883○ 粒 II-6-(1) 12 II-6-(2) 9 II-6-(3) 1 II-6-(8) 3 併用	土壌処理	北海道		●2	●	●2	●2		●2			●発生期	●前	●再生期	+5~元12L	300 g/a	●	●	●	2	(26) (34) (36) (38) (41) (42)		
		東北		●2	●	●2	●2	●2					●前	●再生期			●	●	●				
		北陸		○2	○	○2	○2	○2	○2		○始	○	○前	○始			○	○	○	○			
		関東・東山・東海	早	○2	○	○2	○2	○2					○発生期	○前			○	1	○	○		○	
		普	○2	○	○2	○2	○2		●始	○始	○	○前	○再生期	○			○	○	○				
		近畿・中国	早	○2	○	○2	○2	○2					○発生期	○前			○		○	○		○	1
		普	○2	○	○2	○2	○2		●始	○期	○前	○		○			○	○	○	○		2	
		四国	早	○2	○	○2	○2	○2					○発生期	○前			○		○	○		○	1
		普	○2	○	○2	○2	○2		●始	○期	○前	○		○			○	○	○	○		2	
		九州	早	○2	○	○2	○2	○始			●前	○発生期	○前	○			○	○	○	○		○	1
		普	○2	○	○2	○2	○始		●始	○期	○前	○	●	○			○	○	○	○		○	1.5

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する（関東・東山・東海）
オモダカに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する（北陸・関東・東山・東海、九州）

	処理法	地域名	作 期	元1	一年 広葉 マツ	ナリ	カガ ツ	ミガ ツ	ハラ ツ	カガ イ	ナリ ツ	ヒル ツ	落類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用 の注意	
Ⅶ-1 14. KUH -883○ -1kg 粒	土壌処理	北海道													+5~ 元1 2L	100 g/a					(26) (34) (38) (41)	
		東北																				
		北陸	●2	●	●2	●2	●2	●2		●始	●発生期	●前	●再生前 始	●			●	●	●	2		
		関東・東山・東海	早 ●2	●	●2	●2	●2						●前				●	●	●			
		普	●2	●	●2	●2	●2						●前				●	●	●			
		近畿・中国	早																			1
		普	●2	●	●2	●2	●2											●	●	●		
		四国	早																			
		普	●2	●	●2	●2	●2											●	●	●		
		九州	早																			2
普	●2	●	●2	●2	●始				●発生期	●前		●	●	●	●							

	処理法	地域名	作期	元1	一年 広葉 マツ	ナリ	カガ	ミガ ツ	ハラ ツ	カガ イ	ナリ ツ	ヒル ツ	落類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用 の注意				
Ⅶ-1 15. NC 粒 Ⅱ-6-(1) 13 Ⅱ-6-(7) 6 Ⅱ-6-(8) 4 併用	土壌処理	北海道	○2	○	○2	○2		○2				○	○前 カガ ツ	○始 ツ	トツ ○始	+5~元12L	1.5 300 g/a	○	○	○	○	2	(26) (28) (36) (38) (40) (42) (44)			
		東北	○2	○	○2	○2	○2	○2	○始	○始		○	○生 期	●**	○再 生 前			○シ イ 前~始	○	○	○			○		
		北陸	○2	○	○2	○2	○2	○2				○			○			○	○	○	○			○		
		関東・東山・東海	早	○2	○	○2	○2							●前	○始				○	○	○			○	○	
		普	○2	○	○2	○2	○2		○始	○始		○	○生 期	○前	○			○始 ~本 業 展開期	○	○	○			○	○	
		近畿・中国	早																							
		普																								
		四国	早																*カガ 始~本 業 展開期							
		普																	**カガ 前~始							
		九州	早																							
		普																								

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する（東北・関東・東山・東海）
オモダカに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する（東北・関東・東山・東海）
コウキヤカラに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する（東北）

Ⅶ-1 初期一発処理剤 つづき

	処理法	地域名	作期	ベ1	一年 広葉 マコイ	オコイ	ウカ	ミカ マコイ	ハカ マコイ	カカ マコイ	ヒシ マコイ	落類 表層 剥離	処理時期	使用量・ 製品	砂 壌土	壤 土	埴 土	埴 土	減水深 cm/d	使用上の 注意	
Ⅶ-1 16. NC -311CG 粒	土壌処理	北海道		●1.5	●	●2	●2		●2		●	●前	+5 ~ ベ11.5L	100 g/a	1.5	●	●	●	●	2	(26) (28) (38) (40) (42)
		東北		●1.5	●	●2	●2	●2	●2	●始	●始	●	●再生 前			●	●	●	●		
		北陸		●2	●	●2	●2	●2	●2			●	●始		+5 ~ ベ1 2L	●	●	●	●		
		関東・東山・東海	早	●2	●	●2	●2	●2										●	●	1.5	
			普	●2	●	●2		●2					●発生 前				●	●	●	2	
		近畿・中国	早																		
			普																		
		四国	早																		
			普																		
		九州	早																		
			普																		

	処理法	地域名	作期	元I	一年 広葉マコイ	オコイ	ウカ	ミカマコイ	ハカマコイ	カカイ	カカ	ヒシロ	落類 表層剥離		処理時期	使用量・ 製品	砂 壤土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上の 注意	
Ⅶ-1 17. NC -311CGO 粒 Ⅱ-6-(1) 14 併用	土壌 処理	北海道													g/a								
		東北																					
		北陸																					
		関東・ 東山・ 東海	早																				
			普																				
		近畿・ 中国	早	○1.5	○	○始	○始	○2			○2	○発	●前	○刈	+3~元11.5L	300	g/a		○	○	○	1	(26) (34) (38) (41) (42)
			普	○1.5	○	○2	○2	○2		○始	○始	○期	○前	○再					1	○	○	○	
		四国	早	○1.5	○	○始	○始	○2			○2	○発	●前	○前				○	○	○	1		
			普	○1.5	○	○2	○2	○2		○始	○始	○期	○前	○始			1	○	○	○	○	2	
		九州	早	●1.5	●	●2	●2	●2		○始		●発	●前	●				●	●	●	●	1	
			普	○1.5	○	○2	○2	○2		○始	○始	○期	○前	○					●	○	○	1.5	

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する（近畿・中国・四国・九州）
オモダカに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する（近畿・中国・四国・九州）

	処理法	地域名	作期	ベI	一年 広葉 マコイ	オコイ	ウカ	ミカ 刈	ハカ 刈	カカ イ	ネカ 刈	ヒシ 口	落類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意			
Ⅶ-1 18. NC -311CGO 粒	土壌 処理	北海道													+3 ~ ベ11.5L	100 g/a						1			
		東北																							
		北陸																							
		関東・東山・東海	早																						
			普																						
		近畿・中国	早																						
			普	●1.5	●	●始	●始	●2						●前			●前			●	●		●	●	
		四国	早																						
			普	●1.5	●	●始	●始	●2						●前			●				●		●	●	
		九州	早																						
			普																						

Ⅶ-1 初期一発処理剤 つづき

	処理法	地域名	作期	ベ1	一年広葉マツバ	オキイ	ウカ	ミカサ	ハラカ	ウカ	カサ	ヒル	落葉層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-1 19. NC -311HW 粒 (旧 NC-311H)	土壌処理	北海道		●2	●	●2	●2		●2			●発生期	●前	●再生前	+5 ~ 12L	300 g/a	●	●	●	2	(28)
		東北		●1.5	●	●2	●2	●2	●2					●再生前	+5 ~ 11.5L		●	●	●		(34)
		北陸		●2	●	●2	●2	●2						●始	+5 ~ 12L		●	●	●		
		関東・東山・東海	早																		
			普	●2	●	●2	●2	●2				●発生期		●再生前			●	●	●		
		近畿・中国	早																	1	
			普	●2	●	●2	●始	●2				●発生期		●始			●	●	●		
		四国	早																		
			普	●2	●	●2	●始	●2				●発生期					●	●	●		
		九州	早																		
			普	●2	●	●2	●2	●2									●	●	●		

	処理法	地域名	作期	ベ1	一年広葉マツバ	オキイ	ウカ	ミカサ	ハラカ	ウカ	カサ	ヒル	落葉層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-1 20. NC-M-72 粒	土壌処理	北海道		○1.5	○	○2	○2		○2			○発生期	○発生期	○オキイ	+3 ~ 11.5L	300 g/a	○	○	○	2	(34)
		東北		○1.5	○	○始	○始	○始	○始	○始	○始	○始	○期	○再生前	○オキイ		○	○	○		(38)
		北陸		○1.5	○	○始	○始	○始	○始		○始			○再生前	○オキイ		○	○	○		(40)
		関東・東山・東海	早	○1.5	○	○2	○2	○2				○発生期	○発生期	○始	*12/15カサカサ発生始 ~ 2L		○	○	○		(41)
			普	○1.5	○	○2	○2	○2	○始	○始	○始	○期	○前	○			○	○	○		(42)
		近畿・中国	早	○1.5	○	○2	○2	○2				○発生期		○			○	○	○	1	(3)
			普	○1.5	○	○2	○2	○2			○2	○期		○再生前			○	○	○	1.5	(26)
		四国	早	○1.5	○	○2	○2	○2				○発生期		○前			○	○	○	1	
			普	○1.5	○	○2	○2	○2			○2	○期		○始			○	○	○	1.5	
		九州	早	○1.5	○	○2	○2	○2				○発生期		○			○	○	○		
			普	○1.5	○	○2	○2	○2			○始	○期		○			●	○	○		

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する（東北）
オモダカに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する（東北・関東・東山・東海、九州）

	処理法	地域名	作期	ベ1	一年広葉マツバ	オキイ	ウカ	ミカサ	ハラカ	ウカ	カサ	ヒル	落葉層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-1 21. NJM-754 粒 II-6-(1) 22 併用	土壌処理	北海道		○1.5	○	○2	○2		○2			○発生期	○発生期		+3 ~ 11.5L	300 g/a	●	○	○	2	(34)
		東北		○1.5	○	○始	○始	○始	○始			○期	○前				●	○	○		(42)
		北陸		○2	○	○2	○2	○2	○始						+3 ~ 12L		●	○	○		
		関東・東山・東海	早	○2	○	○2	○2	●始									○	○	○	2	
			普	○2	○	○2	○2	○2		●始							○	○	○	2	
		近畿・中国	早	○1.5	○	○2	○2	○2				○発生期			+3 ~ 11.5L		○	○	○	1	
			普	○2	○	○2	○2	○2		●始		○期			+3 ~ 12L		○	○	○		
		四国	早	○1.5	○	○2	○2	○2				○発生期			+3 ~ 11.5L		○	○	○		
			普	○2	○	○2	○2	○2		●始		○期			+3 ~ 12L		○	○	○		
		九州	早	○1.5	○	○2	○2	○2				○発生期			+3 ~ 11.5L		○	○	○		
			普	○2	○	○2	○2	○2				○期			+3 ~ 12L		○	○	○	1.5	

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する（関東・東山・東海）

Ⅶ-1 初期一発処理剤 つづき

	処理法	地域名	作期	元1	一年広葉マシイ	オシイ	ウカ	ミカ	ハラカ	カカ	カカ	ヒカ	落類表層剥離	切	処理時期	使用量・製品	砂土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-1 22. NSK-850 粒	土壌処理	北海道		○1.5	○	○2	○始		○2			○発生期	●前	○前	+5~元1.5L	300 g/a	○	○	○	○	2	(28)
		東北		○2	○	○2	●2	○2	●2				○前	○前	+5~元1.2L		○	○	○	○		
		北陸																				
		関東・東山・東海	早																			
			普																			
		近畿・中国	早																			
			普																			
		四国	早																			
			普																			
		九州	早																			
			普																			

Ⅶ-1

23. NSK-850D-1kg 粒 「継」

	処理法	地域名	作期	元1	一年広葉マシイ	オシイ	ウカ	ミカ	ハラカ	カカ	カカ	ヒカ	落類表層剥離	切	処理時期	使用量・製品	砂土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-1 24. NSK-850D 粒	土壌処理	北海道																				
		東北																				
		北陸		○2	○	○2	○2	○2	○2				●前	○前	+5~元1.2L	300 g/a	●	○	○	○	2	(28)
		関東・東山・東海	早	●2	●	●2	●2	●2	●2					○前	○前	+5~元1.2L	●	●	●	●		(34)
			普	○2	○	○2	○2	○2				○発生期	○前	○前			○	○	○	○		
		近畿・中国	早	●2	●	●2	●2	●2	●2				●発生期	●始	+5~元1.2L		●	●	●	●	1	
			普	○2	○	○2	○2	○2				○	○前	○前			○	○	○	○		
		四国	早	●2	●	●2	●2	●2				●	●始				●	●	●	●		
			普	○2	○	○2	○2	○2				○	○前	○前			○	○	○	○		
		九州	早									○発生期	○前	○前			○	○	○	○		
			普	○2	○	○2	○2	○2				○					○	○	○	○		

Ⅶ-1

25. NSK-850D-1kg 粒 「継」

Ⅶ-1

26. NSK-855 フロアブル 「継」

Ⅶ-1

27. NSK-855○ フロアブル 「継」

Ⅶ-1

28. NSK-855○ フロアブル 「継」

	処理法	地域名	作期	元1	一年 広葉 マシイ	オシイ	ウカ	ミカ マシイ	ハラ カ	カカ	ヒカ シ	落葉 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	埴 土	埴 土	減水深 cm/d	使用上 の注意		
Ⅶ-1 29. SKH -8602○ 粒 Ⅱ-6-(1) 25 Ⅱ-6-(2) 17 Ⅱ-6-(5) 9 Ⅱ-6-(6) 8 併用	土 壌 処 理	北海道		○2	○	○2	○始		○2			○発 生 期	○前	○再 生 前 → 始	300 g/a		○	○	○	2	(34) (38) (40) (41) (42)		
		東北		○2	○	○2	○2	○2	○2	●始	●前	○期		○再 生 前 → 始		○始→2L +5~元1 2 L		○	○	○			
		北陸		○2	○	○2	○2	○2								○始		○	○	○			
		関東 ・東山 ・東海	早	●2	●	●2	●始	●2					●				-1	●	●	●		●	1.5
		普	○2	○	○2	○始	○始				○発 生 期	○前	○					○	○	○			
		近畿 ・中国	早	○2	○	○2	○2	○2				○発 生 期		○再 生 前 → 始					○	○		○	2
		普	○2	○	○2	○2	○2						○再 生 前 → 始					○	○	○		○	1
		四国	早	○2	○	○2	○2	○2				○発 生 期		○再 生 前 → 始					○	○		○	
		普	○2	○	○2	○2	○2				○発 生 期		○再 生 前 → 始					○	○	○		○	
		九州	早									○発 生 期		○再 生 前 → 始		+5~元1 2 L		○	○	○		○	
		普	○2	○	○2	○2	○2				○期		○始						○	○		○	1.5

	処理方法	地域名	作期	元1 刈イ	一年 広葉 刈イ	刈イ	刈イ	ミナ 刈イ	ハサ 刈イ	刈イ	刈イ	ヒム 刈イ	藻類 表層 剥離	処理時期	使用量・ 製品	砂 壤土 1.5	壤 土	壤 土	減水 深 cm/d	使用上の注意
VII-1 30. SL-970 フロアブル	土壌処理	北海道		●1.5	●	●2	●2		●2			●発上 期		+3 ~ 元11.5L	100 ml/a	●	●	●	2	(33) (34)
		東北		●1.5	●	●2	●2	●2								●	●	●		
		北陸		●2	●	●2	●2	●2	●2					+3 ~ 元1 2L			●	●		
		関東・東山・東海	早	●2	●	●2											●	●		
			普	●2	●	●2		●2									●	●	●	
		近畿・中国	早												80 ~100 ml/a					1
			普	●2	●	●2	●2	●2								●	●	●		
		四国	早																	
			普	●2	●	●2	●2	●2								●	●	●		
		九州	早												100 ml/a					
			普	●2	●	●2	●2	●2									●	●		

[illegible]

Ⅶ-1 初期一発処理剤 つづき

Ⅶ-1 33. T ⁺ DH-888 ⁺ フロアブル 「継」
Ⅶ-1 34. T ⁺ DH-888 フロアブル 「継」
Ⅶ-1 35. T ⁺ DH-888 ⁺ フロアブル 「継」
Ⅶ-1 36. T ⁺ H-913ADS 粒 「継」
Ⅶ-1 37. T ⁺ H-913ADS ⁺ 粒 「継」
Ⅶ-1 38. T ⁺ H-913ST フロアブル 「継」

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉 マリン	オキイ	ウカ	ミカサ	ハラタ	カクイ	サカ	ヒムロ	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	埴 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
Ⅶ-1 39. TSM-612 フロアブル	土壌処理	北海道		○1.5	○	○始	○始		○始			○			+0~元I1.5L (70g/100ml0分)	ml/a 100~ 120	●	○	○	○	○	2	(33) (34) (3)
		東北		○1.5	○	○始	○始	○始	○始			○					○	○	○	○	○		
		北陸		○1.5	○	○始	○始	○始	○始			○					○	○	○	○	○		
		関東・ 東山・ 東海	早	○1.5	○	○2	○2	○始				○			+0~元I1.5L	80~ 100	○	○	○	○	○		
			普	○1.5	○	○2	○2	○始				○					○	○	○	○	○		
		近畿・ 中国	早	○1.5	○	○始	○2	○2				●			+0~元I1.5L	80~ 100	○	○	○	○	○	1	
			普	○1.5	○	○2	○2	○2				○			+0~元I1.5L		○	○	○	○	○	2	
		四国	早	○1.5	○	○始	○2	○2				●			+0~元I1.5L		○	○	○	○	○	1	
			普	○1.5	○	○2	○2	○2				○			+0~元I1.5L		○	○	○	○	○	2	
		九州	早	○1.5	○	○2	○2	○2				○			+0~元I1.5L		○	○	○	○	○	1.5	
			普	○1.5	○	○2	○2	○2				○					○	○	○	○	○		

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉 マリン	オキイ	ウカ	ミカサ	ハラタ	カクイ	サカ	ヒムロ	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	埴 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
Ⅶ-1 40. DPX-84M 粒 (旧:HOK-917C)	土壌処理	北海道		○2	○	○2	○2		○2			○	○前	○*	+7~元I 2 L	1.5	○	○	○	○	○	2	(28)
		東北		○2	○	○2	○2	○2	○2			○	○前	○前	*15/ササカサ 1~4L 草丈20cm以下	300 g/a	○	○	○	○	○		
		北陸		○2	○	○2	○2	○2	○2			○	○前				○	○	○	○	○		
		関東・ 東山・ 東海	早												+5~元I 2 L								
			普	○2	○	○2	○2	○2									○	○	○	○	○		
		近畿・ 中国	早																				
			普																				
		四国	早																				
			普																				
		九州	早																				
			普																				

Ⅶ-1
41. DPX-84M⁺ 粒 (旧:HOK-917D) Ⅶ-1. 6に統合Ⅶ-1
追加 DM-72 粒 II-6-(1) 2 参照

Ⅶ-2 初・中期一発処理剤

Ⅶ-2
1. DJL-367 粒

「継」

	処理法	地域名	作期	ベ1	一年 広葉 マ刈	初刈	2次 刈	3次 刈	4次 刈	5次 刈	6次 刈	7次 刈	8次 刈	落 葉 層 剥 離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	埴 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意	
Ⅶ-2 2.DPX-84T -1kg 粒	茎葉兼土壌処理	北海道		●2.5	●	●2	●2		●2			●始	●前	●	●*	+5~+20(ベ12.5L)	100 g/a	●	●	●	●	2	(26) (28) (36) (38) (42)	
		東北		●2.5	●	●2	●2	●2	●2	●始	●始	●発生	●始	●再生	●**	+5~+12.5L		●	●	●	●			
		北陸												●再生	●**	* IY/ササガ 始~2L ** IY/ササガ 発生始~盛								
		関東・東山・東海	早																					
			普																					
		近畿・中国	早																					
			普																					
		四国	早																					
			普																					
		九州	早																					
			普																					

処理法	地域名	作期	ベ1	一年 広葉 マ刈	初刈	2次 刈	3次 刈	4次 刈	5次 刈	6次 刈	7次 刈	8次 刈	落葉 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
Ⅶ-2 3. DPX-84TDQ -1kg 粒	北海道														+5 ~ +12.5L	100 g/a						2
	東北																					
	北陸		●2.5	●	●2	●2	●2	●2		●始	●発生	●前	●	●			●	●	●	●		
	関東 ・東山 ・東海	早	●2.5	●	●2									●							1.5	
		普	●2.5	●	●2																	
	近畿 ・中国	早	●2.5	●	●2	●2	●2						●前								1	
		普	●2.5	●	●2	●2	●2						●前	●			●	●	●	●	1.5	
	四国	早	●2.5	●	●2	●2	●2						●前								1	
		普	●2.5	●	●2	●2	●2						●前	●			●	●	●	●	1.5	
	九州	早																				
		普																				

	処理法	地域名	作期	ベ1	一年 広葉 マ刈	初刈	2次 刈	3次 刈	4次 刈	5次 刈	6次 刈	7次 刈	8次 刈	落葉 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意	
Ⅶ-2 4. DPX-84SC 粒	茎葉堆土 ・ 埴処理	北海道		○2.5	○	○2	○2		○2				○発生	○始	○*	+10~+20(ベ12.5L)	1.5	○	○	○	○	2	(28) (36) (42)	
		東北		○2.5	○	○2	○2	○2	○2	○始			○期	○始	○*	+5~+12.5L	300 g/a		○	○	○			
		北陸														○*	●再生 前~始							
		関東・東山・東海	早														*1次刈 1~4L 20cm 以下							
			普														**2次刈 発生始~ 発生盛				○	○		1)
		近畿・中国	早																					
			普																					
		四国	早																					
			普																					
		九州	早																					
			普																					

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する。(東北・関東・東海・東山)
コウキヤガラに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する。(東北)

Ⅶ-2
5. MY-910 粒

「継」

Ⅶ-2
6. MY-911⊕ 粒

「継」

VII-2
7.MY-911 粒

「继」

	処理方法	地域名	作期	1年 広葉 刈	刈	刈	刈	刈	刈	刈	刈	刈	刈	刈	処理時期	使用 量・ 製品	砂 壤 土	壤 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
Ⅶ-2 8. NC-311R	聖 業 棄 土 境 処理	北海道		○2	○	○2	○2	○2			○発生	○刈	○*	+10~+20(元12)	300 g/a	○	○	○	2	(28)	
粒		東北		○2.5	○	○2	○2	○2	○2	●始	○始	○期	●前 始	+7~+12.5L		○	○	○		(34)	
Ⅱ-6-(1) 16		北陸		○2.5	○	○2	○2	○2	○2		●前	○発生	○始	*12月刈 発生始		○	○	○		(36)	
Ⅱ-6-(2) 11		関東・東山・東海	早									○発生	○始	○前 始	*12月刈 発生始		○	○	○		(38)
Ⅱ-6-(7) 7		普	○2.5	○	○2	○2	○2			○始	○始	○期	○	○本 業展 開期	+5~+12.5L		○	○	○		(40)
Ⅱ-6-(8) 6 併用		近畿・中国	早								○始	●始					○	○	○		(42)
		普	○2.5	○	○2	○2	○2			○始	●始						○	○	○		(44)
		四国	早								○始	●始					○	○	○		
		普	○2.5	○	○2	○2	○2			○始	●始						○	○	○		
		九州	早	●2.5	●	●2	●2	●2				●発生	○刈	○始	○刈始 始~2L		●	●	●	●	
		普	○2.5	○	○2	○2	○2		○始	●前	○期						○	○		1.5	

	処理方法	地域名	作期	ベ1	一年 広葉 マツ	杉	マツ	ミカ マツ	ハナ マツ	マツ	マツ	ヒノ コ	落葉 層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壤 土	壤 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意	
Ⅶ-2 9. NC-311 SCD 粒	葦葉土 壤処理	北海道		●2.5	●	●2	●2		●2			●発生	●前	リイ	始-2L	10+20(20.5L)	1.5	●	●	●	2	(34) (36) (38)
		東北		●2.5	●	●2	●2	●2	●2	●始		●前	●期	リイ	始	+5~12.5L		●	●	●		(34) (40) (41) (42) (44)
		北陸		○2.5	○●	○2	○2	○2			●前	●						○	○	○		
Ⅱ-6-(1) 17 Ⅱ-6-(2) 12 Ⅱ-6-(5) 5 Ⅱ-6-(6) 4 Ⅱ-6-(7) 8 Ⅱ-6-(8) 7 併用		関東・ 東山・ 東海	早	●2.5	●	●2	●2	●2				●発生			●		●	●	●			
		近畿・ 中国	普	○2.5	○	○2	○2	○2				○期	○前	○			●1	○	○	○		
			早	●2.5	●	●2	●2	●2				●発生		●再生		●	●	●	●	1		
			普	○2.5	○	○2	○2	○2				○期	○前	○前			○	○	○		1.5	
		四国	早	●2.5	●	●2	●2	●2				●発生		●始			○	○	○		1	
			普	○2.5	○	○2	○2	○2				○期	○前	○			○	○	○		1.5	
		九州	早	●2.5	●	●2	●2	●2				●発生		●再生		●	●	●	●		1.5	
			普	○2.5	○	○2	○2	○2				○期		○始			●	○	○			

[illegible]

Ⅶ-2 初・中期一発処理剤 つづき

処理法	地域名	作期	ベ1	一年 広葉 マリン	初イ	ウカ	ミカ ツ	ハカ ツ	カカ イ	カカ ツ	ヒカ ツ	落葉 表層 剥離	切 イ	再 イ	処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
Ⅶ-2 11. NC-311T 粒 Ⅱ-6-(1) 18 Ⅱ-6-(7) 9 併用	聖 業 兼 土 壌 処 理	北海道	○2.5	○	○2	○2		○2			○発生	○前 ツイ	○再 ツイ	○***	+10~20(ベ12.5L)	300 g/a	○	○	○	2	(26) (34) (36) (38) (40) (41) (42) (44)
		東北	○2.5	○	○**	○2	○2	○2	○始	○始	○期	○生	○生	○***	+5~12.5L *Ⅱ/ツイカ 発生始-2L		○	○	○		
		北陸	○2.5	○	○**	○2	○2	○2					○前 ツイ	○生	+5~12.5L *Ⅱ/ツイカ 発生始-2L		○	○	○		
		関東 ・東山 ・東海	早	○2.5	○	○2	○2	○2				○発生	○	○	*** 初イカ 始~本葉 展開期 発生始		○	○	○		
		普	○2.5	○	○**	○2	○2		○始	○始	○期	○前	○				○	○	○		
		近畿 ・中国	早	○2.5	○	○2	○2	○2				○発生	○前	○再 生			○	○	○	1	
		普	○3	○	○2	○2	○2	○始	○始	○2	○期	○生	○前	○再 生	+5~12.5L		○	○	○	1.5	
		四国	早	○2.5	○	○2	○2	○2				○発生	○前	○始	+5~12.5L		○	○	○	1	
		普	○3	○	○2	○2	○2	○始	○始	○2	○期	○生	○前	○	+5~12.5L		○	○	○	1.5	
		九州	早	○3	○	○2	○2	○2		○始		○発生	○前	○前	+5~12.5L		○	○	○		
		普	○3	○	○2	○2	○2		○始	○始	○期	○前			+5~12.5L		○	○	○		

クロクワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する。(東北・関東~九州)

処理法	地域名	作期	ベ1	一年 広葉 マリン	初イ	ウカ	ミカ ツ	ハカ ツ	カカ イ	カカ ツ	ヒカ ツ	落葉 表層 剥離	切 イ	再 イ	処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
Ⅶ-2 12. NC-311T -1kg 粒	聖 業 兼 土 壌 処 理	北海道	●2.5	●	●2	●2		●2			●発生	●前 ツイ	●再 ツイ	●***	+10~20 (ベ12.5L)	100 g/a	●	●	●	2	(26) (34) (36) (38) (40) (41) (42)
		東北	●2.5	●	●2	●2	●2	●2	●始	●始	●期	●生	●生	●***			●	●	●		
		北陸	●2.5	●	●2	●2	●2	●2					●前 ツイ	●生			●	●	●		
		関東 ・東山 ・東海	早	●2.5	●	●2	●2					●発生	●	●	+5 ~ 12.5L		●	●	●		
		普	●2.5	●	●2		●2					●前	●再 生				●	●	●		
		近畿 ・中国	早	●2.5	●	●2	●2	●2				●発生	●前	●前 生	* 始~2L ** 始 *** 始		●	●	●	1	
		普	●2.5	●	●2	●2	●2					●生	●前	●			●	●	●		
		四国	早	●2.5	●	●2	●2	●2				●生	●前	●			●	●	●		
		普	●2.5	●	●2	●2	●2					●前					●	●	●		
		九州	早																		
		普																			

処理法	地域名	作期	ベ1	一年 広葉 マリン	初イ	ウカ	ミカ ツ	ハカ ツ	カカ イ	カカ ツ	ヒカ ツ	落葉 表層 剥離	切 イ	再 イ	処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
Ⅶ-2 13. NC-326 粒	聖 業 兼 土 壌 処 理	北海道														300 g/a					(28) (34)
		東北																			
		北陸																			
		関東 ・東山 ・東海	早	●2.5	●	●2	●2	●2				●発生	●再 生		+5 ~ 12.5L		●	●	●	2	
		普	○2.5	○	○2	○2	○2					○生	○前 生				○	○	○		
		近畿 ・中国	早	●2.5	●	●2	●2	●2				●発生	●前 生	●			●	●	●	1	
		普	○2.5	○	○2	○2	○2					○生	○	○			○	○	○		
		四国	早	●2.5	●	●2	●2	●2				●生	●前 生	●			●	●	●		
		普	○2.5	○	○2	○2	○2					○生	○前	○			○	○	○		
		九州	早	●2.5	●	●2	●2	●2				●生					●	●	●		
		普	●2.5	●	●2	●2	●2					●期					●	●	●		

VII-2 初・中期一発処理剤 つづき

	処理法	地域名	作期	ベI	一年 広葉 マリン	オキイ	ウカ	ミカヤ	ハタカ	カクイ	カクイ	ヒムシ	落類 表層 剥離		処理時期	使用 量・製品	砂 壌 土	壤 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意		
Ⅶ-2 14. NC-326○ 粒	茎葉兼土壌処理	北海道																					
		東北																					
		北陸																					
		関東・東山・東海	早																				
			普	●2.5	●	●2	●始	●2								+5 ~ 元12.5L	300 g/a		●	●	●	2	(28) (34)
		近畿・中国	早	●2.5	●	●始	●2	●2					●発生期	●前	●再生前			●	●	●	1		
			普	●2.5	●	●2	●2	●2							●前	●再生前			●	●	●		
		四国	早	●2.5	●	●始	●2	●2					●発生期	●前	●始				●	●	●		
			普	●2.5	●	●2	●2	●2											●	●	●		
		九州	早	●2.5	●	●2	●2	●2					●発生期							●	●		
			普	●2.5	●	●2	●2	●2					●発生期							●	●	●	1.5

	処理法	地域名	作期	ベ1	一年広葉マリン	オキイ	ウカ	ミカヤ	ハタカ	カクイ	ヒムシ	落葉表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意			
VII-2 15. NC-329 粒 II-6-(1) 20 II-6-(2) 14 II-6-(5) 7 II-6-(6) 6 併用	茎葉兼土壌処理	北海道											1月 ●始-2L	+5 ~ 元12.5L	300 g/a				2	(28) (34) (38) (40) (42)			
		東北	●2.5	●	●2		●2	●2	●始	●前		●前	●始										
		北陸	●2.5	●	●2		●2	●2		●前		●前											
		関東・東山・東海	早	●2.5	●	●2	●2	●2											●		●		1
			普	●2.5	●	●2	●2	●2					●前			●始			●		●	●	
		近畿・中国	早	●2.5	●	●2	●2	●2				●前							●		●	●	
			普	●2	●	●2	●2	●2				●前						●	●		●		
		四国	早	●2.5	●	●2	●2	●2				●前							●		●	●	
			普	●2	●	●2	●2	●2				●前						●	●		●		
		九州	早	●2.5	●	●2	●2	●2													●	●	
			普	●2.5	●	●2	●2	●2				●発生期							●		●	●	

VII-2
16. NC-329-1kg 粒 「継」VII-2
17. NCH-903-1kg 粒 「継」VII-2
18. TH-913ADSC 粒 「継」VII-2
19. TH-913SSC 粒 「継」VII-2
追加 DPX-84SCQ 粒 II-6-(1) 5 参照VII-2
追加 DPX-84T 粒 II-6-(7) 4 参照VII-2
追加 DPX-84TDQ 粒 II-6-(1) 7 参照

Ⅶ-3-(1) 長期持続型一発処理剤

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マツ	杉イ	ウツ	ミナツ	ハナツ	カウイ	サウ	ヒメシロ	落葉表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴壌土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-3-(1) 1. DM-72 粒 Ⅱ-6-(1) 2 Ⅱ-6-(2) 1 Ⅱ-6-(5) 1 Ⅱ-6-(6) 1 併用	土壌処理	北海道		●1.5	●	●2	●2		●2			●発生期	●前	●再生前	+5~元11.5L	300 g/a	●1.5	●	●	2	(3) (26) (28) (38) (42)
		東北		●1.5	●	●2	●2			●始	●始			●再生前			●	●			
		北陸												●再生前							
		関東・東山・東海	早																		
			普																		
		近畿・中国	早																		
			普																		
		四国	早																		
			普																		
		九州	早																		
			普																		

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マツ	杉イ	ウツ	ミナツ	ハナツ	カウイ	サウ	ヒメシロ	落葉表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴壌土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-3-(1) 2. DM-72○ 粒	土壌処理	北海道													+5 ~ 元11.5L	300 g/a					
		東北																			
		北陸		●1.5	●	●2	●2	●2	●2				●前	●再生前			●	●	●	2	(3) (26) (28)
		関東・東山・東海	早																		
			普																		
		近畿・中国	早																		
			普																		
		四国	早																		
			普																		
		九州	早																		
			普																		

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マツ	杉イ	ウツ	ミナツ	ハナツ	カウイ	サウ	ヒメシロ	落葉表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴壌土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-3-(1) 3. NC-326 粒 Ⅱ-6-(1) 19 Ⅱ-6-(2) 13 Ⅱ-6-(5) 6 Ⅱ-6-(6) 5 併用	茎葉兼土壌処理	北海道		○2.5	○	○2	○2		○2			○発生期	○発生前	○再生前	+10~+20 (元12.5L) +5 ~ 元12.5L	300 g/a	●1.5	○	○	2	(28) (38) (40) (42)
		東北		○2.5	○	○2	○2	○2	○2	●始	●前	○期	○発生前	○再生前				○	○		
		北陸		○2.5	○	○2	○2	○2		●前				○始				○	○		
		関東・東山・東海	早																		
			普																		
		近畿・中国	早																		
			普																		
		四国	早																		
			普																		
		九州	早																		
			普																		

Ⅶ-3-(2) 一年生持続型除草剤

Ⅶ-3-(2)

1. CG-187 粒

「継」

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マリイ	オキイ	ウカ	ミカサ	ヘサカ	カウイ	カサ	ヒムシ	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴壌土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-3-(2) 2. CGM-15 粒	土壌処理	北海道		●1	●	●始			●始						+3 ~ 元11L	300 g/a	●	●	●	2	
		東北																			
		北陸																			
		関東・東山・東海	早	●1	●	●始											●	●	●	1	
			普	●1	●	●始									+3 ~ 元11.5L		●	●	●		
		近畿・中国	早	●1.5	●	●始											●	●	●		
			普	●1.5	●	●始											●	●	●		
		四国	早	●1.5	●	●始											●	●	●		
			普	●1.5	●	●始											●	●	●		
		九州	早																		
			普	●1.5	●	●始											●	●	●	1.5	

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マリイ	オキイ	ウカ	ミカサ	ヘサカ	カウイ	カサ	ヒムシ	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴壌土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-3-(2) 3. SUM-72 粒	土壌処理	北海道		●1	●	●始			●始						+3 ~ 元11L	300 g/a	1.5 ●	●	●	2	(3) (26)
		東北		●1	●	●始											●	●	●		
		北陸		●1	●	●始											●	●	●		
		関東・東山・東海	早																		
			普																		
		近畿・中国	早																		
			普																		
		四国	早																		
			普																		
		九州	早																		
			普																		

Ⅶ-1 少量散布法

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マリイ	オキイ	ウカ	ミカサ	ヘサカ	カウイ	カサ	ヒムシ	藻類表層剥離	切り ○再生前 ○始	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴壌土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-1 1. DPX-84CG 粒	土壌処理	北海道		○2	○	○2	○2		○2			○再生期		○再生前 ○始	+5 ~ +15 (元1 2L)	300 g/a	1.5 ○	○	○	2	* (28)
		東北															○	○	○		
		北陸																			
		関東・東山・東海	早																		
			普																		
		近畿・中国	早																		
			普																		
		四国	早																		
			普																		
		九州	早																		
			普																		

* 初期剤を前処理に少量散布することにより除草効果向上 (北海道)

Ⅷ-1 少量散布法 つづき

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マリン	オリーブ	カカ	ミカ	ハチ	カウ	カカ	ヒム	落類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅷ-1 2. KUH-883 粒 Ⅱ-6-(1) 11 Ⅱ-6-(2) 8 Ⅱ-6-(7) 5 併用	土壌処理	北海道													+5 ~ +20 (元I 2L)	300 g/a					2	* (28)
		東北		○2	○	○2	○2	○2	○2			○発生期		切○再生前々始			○	○	○	○		
		北陸																				
		関東・東山・東海	早																			
			普																			
		近畿・中国	早																			
			普																			
		四国	早																			
			普																			
		九州	早																			
			普																			

* 初期刻を前処理に少量散布することにより除草効果向上 (東北)

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マリン	オリーブ	カカ	ミカ	ハチ	カウ	カカ	ヒム	落類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅷ-1 3. KUH-883○ 粒 Ⅱ-6-(1) 12 Ⅱ-6-(2) 9 Ⅱ-6-(3) 1 Ⅱ-6-(8) 3 併用	土壌処理	北海道													+5 ~ +20 (元I 2L)	300 g/a					2	* (26) (34) (41)
		東北																				
		北陸		○2	○	○2	○2	○2	○2			○始	○発生期	切○再生前々始			○	○	○	○		
		関東・東山・東海	早	○2	○	○2	○2	○2	○2			○始	○発生期	切○再生前々始			○	○	○	○		
			普	○2	○	○2	○2	○2	○2			○始	○発生期	切○再生前々始			○	○	○	○	1	
		近畿・中国	早	○2	○	○2	○2	○2	○2			○始	○発生期	切○再生前々始			○	○	○	○		
			普	○2	○	○2	○2	○2	○2			○始	○発生期	切○再生前々始			○	○	○	○		
		四国	早	○2	○	○2	○2	○2	○2			○始	○発生期	切○再生前々始			○	○	○	○		
			普	○2	○	○2	○2	○2	○2			○始	○発生期	切○再生前々始			○	○	○	○		
		九州	早																			
			普																			

* 初期刻を前処理に少量散布することにより除草効果向上 (北陸、関東～四国)

	処理法	地域名	作期	元I	一年 広葉 マリン	オリーブ	カカ	ミカ	ハチ	カウ	カカ	ヒム	落類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意	
Ⅷ-1 4. NC-311CG 粒 Ⅱ-6-(1) 13 Ⅱ-6-(7) 6 Ⅱ-6-(8) 4 併用	土 壌 処 理	北海道		○2	○	○2	○2		○2			○ 発 生 期		切 ○ 再 生 前 々 始	+5 ~ +15 (元I 2L)	300 g/a		○	○	○	2	* (28) (26)	
		東北		○2	○	○2	○2	○2				○ 発 生 期					○	○	○	○			
		北陸		○2	○	○2	○2	○2	○2			○ 発 生 期					○	○	○	○			
		関東・東山・東海	早																				
			普																				
		近畿・中国	早																				
			普																				
		四国	早																				
			普																				
		九州	早																				
			普																				

* 初期刻を前処理に少量散布することにより除草効果向上 (北海道、東北、北陸)

[illegible]

Ⅳ-2 少量散布

	処理方法	地域名	作期	1年ぶに	一年広葉マツ	杉イ	ウカ	ミナガサテ	ハチノタネ	知ノイ	林ノコ	ヒメダシ	落類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壤土	壤土	埴土	植埴土	減水深cm/d	使用上の注意		
Ⅶ-2 1.CG-113 程	土壌処理	北海道	●	1	●	●	始			●	始			植代後~-4	150~200 g/a 少量散布	○	●	●	●	2	*		
			東北	○	1	○	○	始			○	始				植代後~-4 または +0~-+5 <u>(C/E/D)</u>	○	○	○	○		**	
			北陸	○	1	○	○	始									○	○	○	○			
			関東・東山・東海	早	○	1	○	○	始		●	始						○	○	○	○	<u>2</u>	
				普	○	1	○	○	始									○	○	○	○	2	
			近畿・中国	早	○	1	○	○	始		○	始							○	○	○	○	1
		普		○	1	○	○	始		○	始						○	○	○	○	1.5		
		四国	早	○	1	○	○	始		○	始						○	○	○	○	1		
			普	○	1	○	○	始		○	始						○	○	○	○	1.5		
		九州	早	○	1	○	○	始		○	始					植代後~-4		○	○	○	○	1.5	*
普	●		1	●	●	始								植代後~-4 また +0~-+5		●	●	●	●	1	**		

* 一発処理型除草剤の前処理として播代後～-4に少量散布(150～200g/a)が可能
 ** 一発処理型除草剤の前処理として播代後～-4、+0～+5(ノビエ1L)に少量散布(150～200g/a)が可能

[illegible]

— 61 —

Ⅶ-2 少量散布 つづき

	処理法	地域名	作期	ベI	一年広葉マII	オII	ウII	ミII	ハII	カII	セII	ヒII	落類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深cm/d	使用上の注意
Ⅶ-2 3.MO-338 粒	土壌処理	北海道		●1	●									播代後～4	200 ～300 g/a *少量散布	●	●	●	●	2	*
		東北		○1	○											○	○	○	○		
		北陸		○1	○											○	○	○	○		
		関東・東山・東海	早	○1	○											○	○	○	○		
			普	○1	○											○	○	○	○		
		近畿・中国	早																		
			普																		
		四国	早																		
			普																		
		九州	早																		
			普																		

* 一発処理型除草剤の前処理として播代後～4に少量散布（200～300g/a）が可能

	処理法	地域名	作期	ベI	一年 広葉 マII	オII	ウII	ミII	ハII	カII	セII	ヒII	落類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意		
Ⅶ-2 4.MTS-1 粒	土 壌 処 理	北海道		●1	●	●始									播代後～4	150 ~200 g/a * 少量 散布	●	●	●	●	2	*		
		東北		○1	○	○始											○	○	○	○				
		北陸		○1	○	○始											○	○	○	○				
		関東 ・東山 ・東海	早	○1	○	○始											○	○	○	○				
			普	○1	○	○始											○	○	○	○				
		近畿 ・中国	早	○1	○	○始														○	○		○	1
			普	○1	○	○始												○	○	○	○		1.5	
		四国	早	○1	○	○始														○	○		○	1
			普	○1	○	○始														○	○		○	1.5
		九州	早	○1	○	○始														○	○		○	○
			普																					

* 一発処理型除草剤の前処理として播代後～4に少量散布（150～200g/a）が可能

水稻関係除草剤使用基準一覧表の表示について

1. 過年度、既に実用化の認められている適用草種・土壌条件に○を印した。
（本年度の試験の結果、特に拡大のない場合も含む。）

草種欄の数字、字句で草種毎の葉齢を示した。〔例：○前（発生前）、○2（2葉期まで）〕

使用上の注意は別途一覧表の番号で記し、一覧表にない注意事項の場合は*を付し、欄外に字句を記載した。

2. 本年度、新たに使用基準が作成された場合は、実用化可能となった適用草種・土壌に●を印し、処理時期・使用量を記載した。
3. 過年度の基準に適用条件拡大が可能となった場合

作 期 の 拡 大：拡大可能となった作期の適用草種・土壌に●を印した。

草 種 の 拡 大：拡大可能となった草種に●を印した。

葉 齢 の 拡 大：拡大可能となった葉齢にアンダーラインを付した。（例：○2.5）

処理時期、使用量の拡大：拡大部分にアンダーラインを付した。（例：+3～ベI2L、50～75ml/a）

土壌条件の拡大：拡大可能となった土壌に●を印した。

4. 「継」、「継?」、「中止」の場合は判定のみ記載した。

使用上の注意一覧表

- (1) 低気温及び低水温は薬害の危険性があるので使用はさける。
- (2) 処理後2日以内に低温や降雨が予想される場合は使用をさける。
- (3) ごく浅植えの場合、薬害のおそれがあるので注意する。
- (4) 移植後の深水はさける。
- (5) 深水での処理はさける。
- (6) 散布は水稲になるべくかからないようにする。
- (7) 著しい高温条件下のときは、砂壤土ではクロロシスの発生が著しいので注意する。
- (8) トリアジン系除草剤の使用上の注意を守る。
- (9) MCP混合剤の注意事項を守る。
- (10) 処理後の灌水は48~72時間経過後に行なう。
- (11) 処理後2日以内に降雨が予想される場合は使用をさしひかえる。
- (12) 落水もしくは浅水で使用する。
- (13) ミズガヤツリの多い水田では早めに散布する。
- (14) ミズガヤツリに対し遅い処理では、400g/a を処理する。
- (15) ホタルイ、ミズガヤツリ優先圃場では、400g/a で処理する。
- (16) ホタルイ多発田では早めに使用する。
- (17) 泥炭質土壌では、ウリカワに対する効果が低下することがある。
- (18) コナギ多発田では早めに処理する。
- (19) 一年生広葉雑草多発田では400g/a とし、特にヒメミソハギが多発する水田での使用は避ける。
- (20) クログワイ防除はクログワイに有効な前処理剤との組合せで使用する。
- (21) 前処理剤との組合せで使用する。
- (22) 稀釈水量は出来るだけ少く茎葉に付着するように散布する。
- (23) ノリ面散布は避ける。
- (24) 流入、飛散等による水稲への薬害に注意する。
- (25) 周辺の作物に飛散しないように注意する。
- (26) 植付精度不良で根が露出する水田では使用しない。
- (27) ホタルイ多発田では、ホタルイに有効な中・後期剤との組合せで使用する。
- (28) 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合があるので使用はさしひかえる。
- (29) コウキヤガラに有効な中・後期剤との組合せで使用する。
- (30) 水稲が水面に抽出してから使用する。
- (31) 短小苗、深水条件での使用は避ける。
- (32) クログワイ防除はクログワイに有効な後期剤との組合せで使用する。
- (33) 広葉多発田での使用はさける。
- (34) 田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用する。
- (35) マツバイ多発田での使用はさける。
- (36) コウキヤガラ防除は、コウキヤガラに有効な剤との組合せで使用する。
- (37) クログワイ防除の場合、同一成分含有薬剤を初期剤として使用しないこと。
- (38) オモダカ防除は、オモダカに有効な剤との組合せで使用する。
- (39) ミズガヤツリ防除は、ミズガヤツリに有効な前処理剤との組合せで使用する。
- (40) シズイ防除は、シズイに有効な剤との組合せで使用する。
- (41) 散布後24時間以内から1日50mm以上の降雨が連続することが予想される場合は使用を差し控える。
- (42) クログワイ防除はクログワイに有効な剤との組合せで使用する。
- (43) エゾノサヤヌカグサ防除はエゾノサヤヌカグサに有効な剤との組合せで使用する。
- (44) クサネムが残草または後発生した場合は有効な後期剤を散布する。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 東京(03)3832-4188(代)

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 櫛 淵 欽 也
発行人 植 調 編 集 印 刷 事 務 所 広 田 伸 七

平成4年3月発行 定価412円(送料210円)
植調第25巻第12号 (本体400円, 消費税12円)

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植 調 編 集 印 刷 事 務 所
電話 東京(03)3833-1821番(代)

流れは一発、ワンオール



水田初期一発処理除草剤

ワンオール[®]粒剤



農 協
経 済 連
全 農

ワンオール協議会

全国農業協同組合連合会 石原産業株式会社
日本チバガイギー株式会社 八洲化学工業株式会社

事務局 石原産業株式会社

東京都千代田区富士見2-10-30

チョットつけるだけ。 タップリかける時代の終りです。

ラウンドアップ®の特徴を活かした新しい
除草法です。(少量散布技術)

●薬量が250mlと少なく経済的。

通常の散布方法で10アール当り500mlの薬量が必要
な場面でも、250mlで同じ効果を出すことができ経済的です。

●散布水量が25ℓ(今までの $\frac{1}{2}$ ~ $\frac{1}{4}$)
と少なく省力的。

除草剤の散布は薬剤によって10アール当り100ℓあるい
は200ℓの散布水量が必要でしたが、専用ノズルを取り
替えるだけでわずか25ℓで済み散布、準備、水の運搬、
薬剤の調合が楽になり省力的です。

●ラウンドアップを詳しく説明したパンフレットを差しあげております。
下記の住所までお申し込みください。



しっかり枯らす。
長〜く抑える。ラウンドアップ®

ラウンドアップ普及会
クミアイ化学工業(株)・三共(株)

事務局 日本モンサント株式会社 アグロサイエンス事業部
〒100 東京都千代田区丸の内3-1-1国際ビル Tel.(03)287-1251

®米国モンサント社登録商標

自信の選択。



水田除草、新時代。

水田除草に新しい時代をひらいたDPX-84剤*

ブッシュ® ウルフエース® ザーク®
ゴルボ® フシクラス®

*DPX-84の一般名はベンシルフロンメチル

(登録番号順)



デュポン ジャパン リミテッド 農業事業部
〒105 東京都港区虎ノ門2-10-1 新日鉱ビル・デュポンタワー TEL.(03)3224-8683

力と技の ウルコエース

頑固な雑草に必殺一発パンチ!

これぞ
水田除草剤の
定番!!

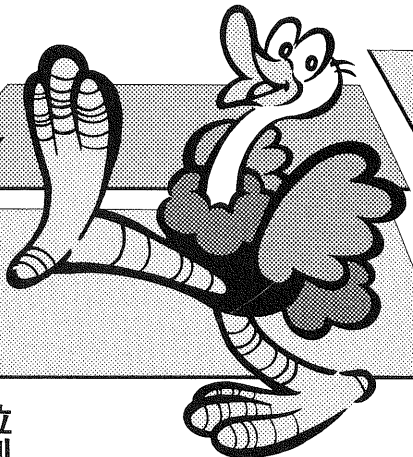


 農協・経済連・全農

自然に学び 自然を守る
 クミアイ化学工業株式会社

効きめ、あざやか。

「初期」から「中期」への絶妙のバトンタッチ。



水田中期除草剤

マメット[®]SM[®] 粒剤

- ノビエの3.5葉でも効果バッチリ/
- 多年生雑草にも効果抜群/

■雑草の発生に合わせて姉妹品もどうぞ。

マメット[®]粒剤/オードラム[®]粒剤/エスドラム[®]粒剤/ナクサー[®]粒剤

 農 協
経 済 連
全 農

モリネート普及会 八洲化学/三笠化学/アイ・シー・アイ・ジャパン/トーメン
事務局 八洲化学工業株式会社 〒103 東京都中央区日本橋本町1-9-4